中　岡　遺　跡

宮崎市文化財調査報告書

昭和62年3月

宮崎市教育委員会

正　誤　表

頁	行	誤	正
例言	5	3．調査における実測及び測量は…	（消　去）
〃	6	3．調査における実測量は、……	3．調査における実測及び測量は、…
〃	13	9．土器一覧表の番号は、土器挿図‥	8．土器一覧表の番号は、土器挿図‥
〃	14	10．図版の土器については、……	9．図版の土器については、……
〃	15	11．本書挿図中の方位は……	10．本書挿図中の方位は……
〃	16	12．中岡遺跡及び出土土器……	11．中岡遺跡及び出土土器……
〃	19	13．本書における出土遺物は、……	12．本書における出土遺物は、……
		総目次	本文目次
		第16図　D-9・D-10・C-11……	第16図　D-9・D-10・D-11……
図版目次	4	②発堀調査作業風景	②発掘調査作業風景
〃	6	③発堀調査作業風景	③発掘調査作業風景
〃	17～30	（図版６以下のページ数の47～60）	（46から59までに変更）
〃	22	図版11　C-6区出土土器51～64	図版11　C-6区出土土器52～64
〃	25	図版14　C-7・0-7区出土土器84～96	図版14　C-7・D-7区出土土器85～96
2	2	……南斜面にやや平担な……	……南斜面にやや平坦な……
4	23	……分割され、その後は荘円制……	……分割され、その後は荘園制……
8	5	……楕円形に堀り込まれた……	……楕円形に掘り込まれた……
8	13	cmの円形状焼成土壌も……	cmの円形状焼成土坑も……
8	31	……大まかに形成分類……	……大まかに形式分類……
8	36	～終末期に層する……	～終末期に属する……
37		A類	第19図　A類
38		B類（a・b・c）・C類	第20図　B類（a・b・c）・C類
39		D類（a・b・c）・E類	第21図　D類（a・b・c）・E類
40		F類・G類	第22図　F類・G類
54	タイトル	図版14　C-7・D-7区出土土器84～96	図版14　C-7・D-7区出土土器85～96

序

中岡遺跡は，宮崎市街地の南部に近接する北川内町大字中岡にあり，昭和57年末から翌年２月にかけての調査によって弥生時代終末期の土器焼成跡として知られるところとなりました。

このような土器製作焼成遺跡の発見は全国的にもまれなことで，中岡遺跡そのものはもとより，出土土器についても今後南九州における弥生時代終末期の土器編年の中心的な資料として貴重なものであると思っております。

発掘調査の成果につきましては，昭和58年12月の「宮崎の古代を考えるシンポジウムのレジユメ」ならびに昭和59年３月の「宮崎市遺跡等詳細分布調査報告」の中で，その概要の一部を発表してきたところでありますが，今回まとまった調査報告書を刊行する運びとなりました。

この報告書が諸地域における調査研究の一助となり，埋蔵文化財保護に寄与できれば幸いです。

最後に，発掘調査にあたり種々ご指導ご援助をいただきました関係各位，ならびに発掘作業にたずさわっていただいた方々に感謝申し上げます。

昭和62年３月

宮崎市教育委員会

教育長　柚木崎　敏

例　　言

1. 本書は，宮崎市教育委員会が昭和57年11月８日から58年２月16日まで実施した，中岡遺跡の緊急発掘調査報告書である。
2．発堀調査には，野間重孝，緒方博文があたった。
3．調査における実測及び測量は，野間重孝，緒方博文があたった。
3．調査における実測量は，野間重孝，緒方博文があたり，写真撮影は野間重孝が行った。
4．遺物整理は，出土遺物の多量なことから58年から61年に及び，主に西本州司，橋本博文が行い，伊東但，荒武麗子がこれを補った。
5．遺物の実測，トレース，写真撮影は荒武麗子が主となって行った。
6．本書の執筆は，野間重孝，荒武麗子が行い，文責は本文目次に記した。
7．本書の編集は，荒武麗子が主となり行った。
9．土器一覧表の番号は，土器挿図及び図版と合致している。
10．図版の土器については，その大きさの統一を欠いている。
11．本書挿図中の方位はすべて磁北である。
12．中岡遺跡及び出土土器については，過去，「宮崎市遺跡等詳細分布調査報告書」Ⅰ（1984）及び「宮崎の古代を考えるシンポジューム」レジメ（1983）等に掲載している。
13．本書における出土遺物は，宮崎市教育委員会が保管している。

総　目　次

Ⅰ．発掘調査について ……＜野間　重孝＞…… 1

1．調査に至る経過と調査の組織…… 1

2．調査の概要…… 2

Ⅱ．遺跡について……＜野間　重孝＞…… 4

1．遺跡の立地…… 4

2．周辺の歴史的環境…… 4

Ⅲ．遺構と遺物（土器） …… 8

1．遺構について……＜野間　重孝＞…… 8

2．土器について……＜荒武　麗子＞…… 8

3．絵画文・線刻文のある土器……＜荒武　麗子＞…… 37

挿　図　目　次

第　1　図　中岡遺跡とその周辺遺跡 …… 3

第　2　図　中岡遺跡の位置（$\frac{1}{5000}$）…… 5

第　3　図　中岡遺跡全体図 …… 6

第　4　図　焼成土坑実測図 …… 7

第　5　図　焼成土坑内出土土器実測図１～11（$\frac{1}{4}$）…… 9

第　6　図　D－5・C－5区（焼成土坑上面）出土土器実測図12～20（$\frac{1}{4}$）…… 10

第　7　図　C－4・D－5区出土土器実測図21～31（$\frac{1}{4}$）…… 11

第　8　図　C－4・D－5・D－6区出土土器実測図32～41（$\frac{1}{4}$）…… 12

第　9　図　C－6区出土土器実測図42～50（$\frac{1}{4}$）…… 13

第　10　図　C－6区出土土器実測図51～64（$\frac{1}{4}$）…… 14

第　11　図　C－7区出土土器実測図65～73（$\frac{1}{4}$）…… 15

第　12　図　C－7区出土土器実測図74～83（$\frac{1}{4}$）…… 16

第 13 図　C－7・D－7区出土土器実測図84～96（1/4）……17
第 14 図　D－7・E－7・C－8・C－9区出土土器実測図97～107（1/4）……18
第 15 図　D－8・D－9区出土土器実測図108～118（1/4）……19
第 16 図　D－9・D－10・C－11・C－12区出土土器実測図119～128（1/4）……20
第 17 図　C－11・D－12・D－13区出土土器実測図129～139（1/4）……21
第 18 図　E－11・E－12・E－13・F－11区出土土器実測図140～147（1/4）……22
第 19 図　A　類……37
第 20 図　B類（a・b・c）・C類……38
第 21 図　D類（a・b・c）・E類……39
第 22 図　F類・G類……40

表　目　次

出土土器一覧表……23～36

図　版　目　次

図版１ …… 41
① 遺跡の全景
② 発掘調査作業風景

図版２ …… 42
③ 発掘調査作業風景
④ 焼成土坑上面土器出土状態

図版３ …… 43
⑤ 焼成土坑上面土器出土状態（北から）
⑥ 焼成土坑上面土器出土状態（東から）

図版４ …… 44
⑦ 焼成土坑上面土器出土状態
⑧ 〃

図版５ …… 45
⑨ 焼成土坑内土器出土状態
⑩ 焼成土坑掘り上げ後の状況

図版６　焼成土坑内出土土器１～11 …… 47
図版７　Ｄ－４・Ｄ－５・Ｃ－５区出土土器12～20 …… 48
図版８　Ｃ－４・Ｄ－５区出土土器21～31 …… 49
図版９　Ｃ－４・Ｄ－５・Ｄ－６区出土土器32～41 …… 50
図版10　Ｃ－６区出土土器42～50 …… 51
図版11　Ｃ－６区出土土器51～64 …… 52
図版12　Ｃ－７区出土土器65～73 …… 53
図版13　Ｃ－７区出土土器74～83 …… 54
図版14　Ｃ－７・Ｄ－７区出土土器84～96 …… 55
図版15　Ｄ－７・Ｅ－７・Ｃ－８・Ｃ－９区出土土器97～107 …… 56
図版16　Ｄ－８・Ｄ－９区出土土器108～118 …… 57
図版17　Ｄ－９・Ｄ－10・Ｄ－11・Ｃ－12区出土土器119～128 …… 58
図版18　Ｃ－11・Ｄ－12・Ｄ－13区出土土器129～139 …… 59
図版19　Ｅ－11・Ｅ－12・Ｅ－13・Ｆ－11区出土土器140～147 …… 60

Ⅰ　発掘調査について

1．調査に至る経過と調査の組織

昭和57年（1982）10月20日に，土地占有者[redacted]より畑地造成中，1個の壷を発見したとのことで遺跡発見届けが提出された。宮崎市教育委員会は早速，現地調査を行い掘削土壁面に多量の土器片の含有を確認することができた。そこで畑地造成を1時中断してもらうことにし，緊急発掘調査を実施することとなった。

調　査　体　制

所　在　地　　宮崎市北川内町字中岡4882番地

調 査 期 間　　昭和57年11月8日～昭和58年2月16日

調 査 主 体　　宮崎市教育委員会

調査担当者　　野間　重孝（社会教育主事）

緒方　博文（社会教育指導員・現日向市教育委員会）

調査補助員　[redacted]

調 査 協 力　[redacted]

茂山　　護（宮崎県総合博物館）

蓑方　政幾（現西都市教育委員会）

高橋加奈子

事　務　局　　宮崎市教育委員会

教 育 長　　黒木　定弥

教育次長　　森木　輝宣

社会教育課　課長　　山田　義夫

〃　　補佐　　杉田三千夫

〃　　主事　　菊地　　進

〃　　主事　　年吉　孝一

2．調査の概要

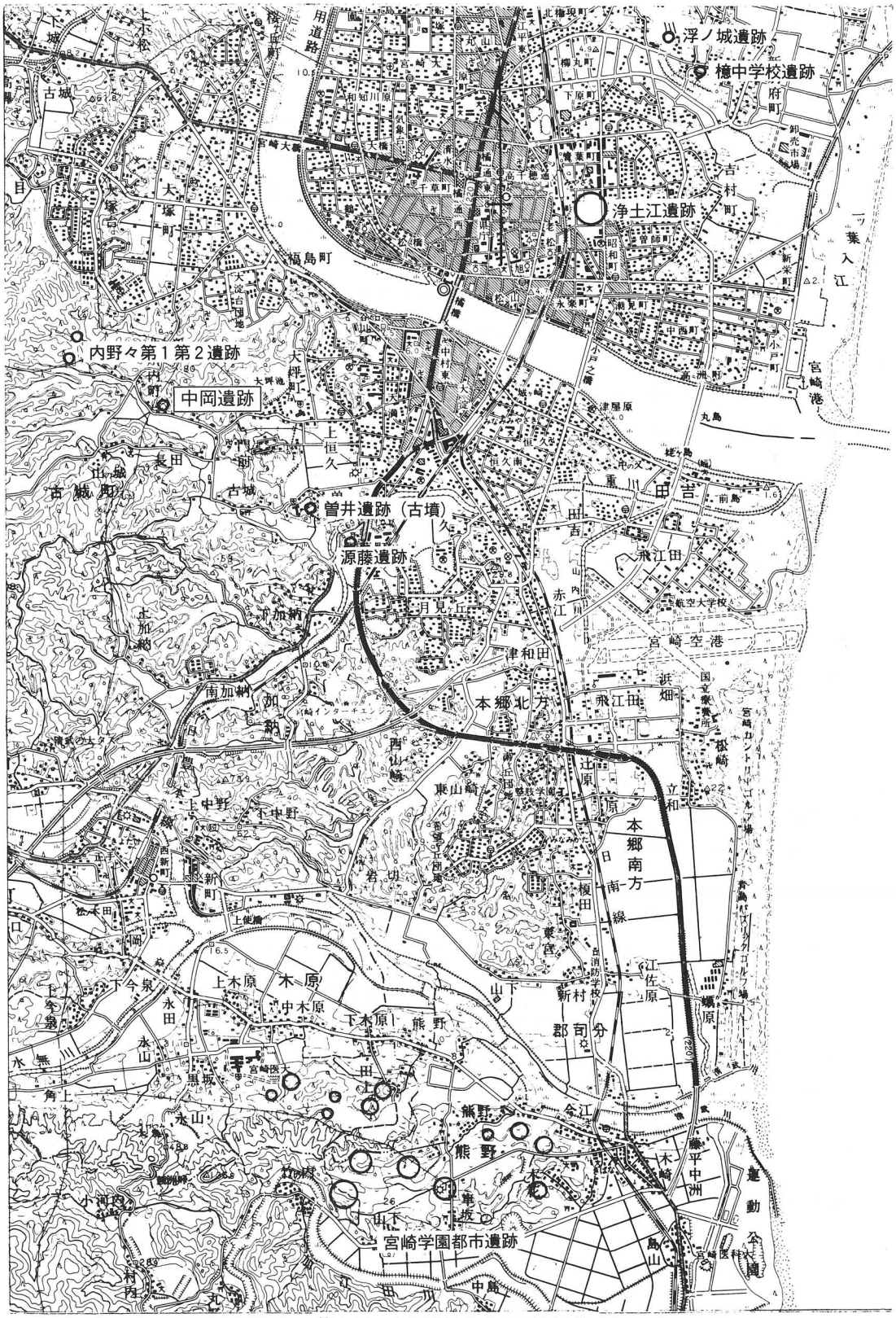
遺跡は，東西に延びる丘陵の南斜面にやや平坦な丘地があり，その丘地に立地していた。

過去，みかん園として利用されていたが，牧草地に転換するため厚さ約２ｍの掘削造成が行なわれ，丘地の大半はなくなり基盤となるシラス層が露出している状況となっていたが北側丘陵裾部から広がる１部は残存していた。こうしたことから遺跡の大半は消滅しているかに見受けられたが窪地部分は残存しており，幸い１部を除いて遺跡の主体部は残されていた。

発掘調査は当初10日間の予定で57年11月８日から着手することとなった。調査が進むにしたがって遺物の出土も多くなり遺跡の主体部は残っていることを確認し，数回の発掘調査期日を延長して，翌年の２月にかかる発掘調査期間となった。

遺跡における土器包含状況は幅約６ｍ，長さ約20ｍの細長い範囲内に集中し，北傾斜及び西傾斜面に堆積した状態にあり，高位置に当る12・13区では３層の包含状況が見受けられ，低位置となる５～８区では７層にわたる包含層を検出している。特に９～11区は，東西，南北からの傾斜が強いところであり，土器堆積にもかなり乱れを生じる状況を呈していた。遺跡内では北側傾斜面に土器溜めと思われる厚い土器の集積や幅約80㎝，長さ約1.2ｍ，深さ約80㎝の長方形状の掘り込み（井戸跡）や平坦面になって直径約２ｍ，高さ約１ｍの粘土山が検出されている。平坦面ではブロック状に焼土面を検出することができた。

一方，これらに続く西側低位置には，西方面からの自然傾斜面を切り取って壁をつくり東側平坦面では１部粘土による土壁を作った幅約1.5ｍ，長さ約６ｍ，深さ約50㎝の長楕円形状の焼土坑が検出され，その北半において重複する形で直径約1.5ｍ，深さ約50㎝の円形焼成土坑が検出されている。以上のような遺構及び多量の土器群をもつことから，この遺跡は土器製作焼成跡の性格が強く窺われるものであった。



第１図　中岡遺跡とその周辺遺跡

Ⅱ　遺跡について

1．遺跡の立地

宮崎市街地の南，大淀川で分断された南部にあって標高30～100m内外の比較的起伏の強い丘陵地帯が展開している。丘陵間には盆地状の水田地帯が広がり，大淀川河口に注ぐ八重川の上流において古城川となって入り込んでいる。丘陵地は，洪積世の段丘れき層やシラス及びローム層から成り，低地は下層において厚い粘土層をもつ水田面を形成している。

遺跡は，北川内町字中岡にあって，標高30mほどの山陵部分の西，東方向と山陵斜面となり南西方向にわずかに開かれたすり鉢状のくぼ地に営まれている。遺跡を取り巻く斜面は基盤のシラス層によって形成されており，現在ではこれらは垂直状に削り取られシラス層面を露出し厚いところで10mを測る。

遺跡の立地するくぼ地の土層は，Ⅰ層に黒色表土層，Ⅱ層に淡褐色土層，Ⅲ層に灰褐色土層，Ⅳ層に黒褐色土層，Ⅴ層は黒褐色粘質土層となり，土器群の包含層となっている。Ⅵ層に黄褐色粘質土層が入り，焼土坑等の遺構はこの層を切り込んでいる。Ⅶ層は黄褐色土層でパサパサした感じとなり，Ⅷ層になってシラス層となり，厚く堆積している。

2．周辺の歴史的環境

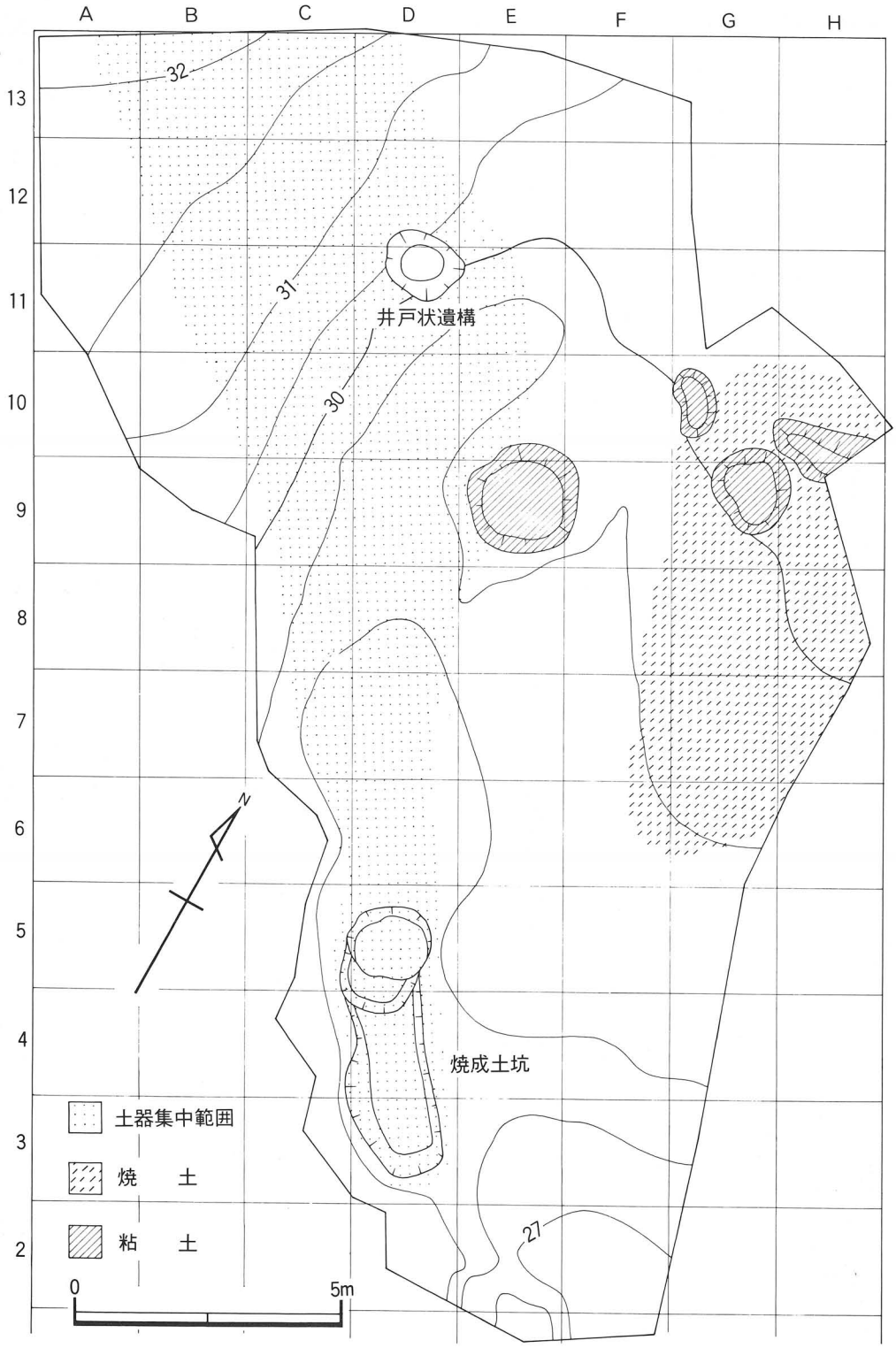
北川内町を含む古城地区は，前述したように起伏の強い山陵に囲まれた地域であり，丘陵平担面の及び裾部において遺跡の分布が見受けられる。特に弥生時代後期から終末期に至ってその遺跡数を増している。丘陵上では内野々遺跡（56年調査），低地では下古城遺跡（弥生時代後期から終末にかかる土器群が古城川河川改修工事によって発見）等16遺跡が確認されている。特に中岡遺跡に類似する遺跡が分布することが知られる。

中世になって，この地域は建久８年の「日向国図田帳」によると大淀川南部に開発された八条女院領国富荘に包含され，大淀川下流南岸に開かれた「一円荘，太田百町」の西域に位置している。南北朝時代の末期になると国富荘は土持氏と伊東氏によって分割され，その後は荘円制の崩壊となってくる。伊東氏は国富荘を足がかりとして宮崎平野中央部の支配権を強化していった。室町時代から戦国時代にかけては伊東氏と島津氏の覇権争いの渦中となる。古城地域は地形的なものと相まって，曽井城を中心とする宮崎平野中央部の要害としての役割を果たすことになり，天文年間（1532～1555年）に古城（古城町），山城（北川内町山城），本城（古城町時雨）の中世山城が築かれ，その城跡をとどめている。江戸時代に入ると曽井地区は飫肥藩領となったのに対して古城地域は延岡藩の飛び地となっている。

一方，古城には日向七堂伽藍の１つに数えられた池上山伊満福寺がある。真言宗の寺であり，１時期は隆盛を極め古城町時雨に奥の院を擁し，現在の大淀地区横町は門前町として栄えたこともある。文政元年（1818年）12月付の「修験書上帳」には古城村や大塚（大墓）村に数人の修験者が居たことも記されており，修験者達の道場として，この一帯に連なる起伏の強い山陵が用いられたものと思われる。

今なお，伊満福寺境内及び山陵頂部には当時を偲ぶ石塔群が多く残されている。

第２図　中岡遺跡の位置（5,000分の１）


A
B
C
D
E
F
G
H
13
12
11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
32
31
30
27
井戸状遺構
焼成土坑
N
土器集中範囲
焼　土
粘　土
0
5m

第３図　中岡遺跡全体図

第4図　焼成土坑実測図

Ⅲ．遺構と遺物（土器）

1．遺構について

発堀調査は，調査区を２m方眼に組み南北軸を１～13区，東西軸をＡ～Ｈ区に設定した範囲において行っている。

遺構としては円形及び楕円形に堀り込まれた焼土坑，円形の粘土山，方形の井戸状遺構及び広範な焼土面を検出している。

土器群はＤ－３区から始まりＤ軸を中心として13区までおよび13区ではＤ～Ａ区におよぶ裾広がり状態の出土を見ている。

焼土坑は，Ｄ－３区～Ｄ－５区にかけて検出され，西からの自然傾斜面を切り取って壁をつくり，東側においては一部粘土による土壁を作った幅約1.5m，長さ約６m，深さ約50cmの長楕円形状を呈し，床面は赤色の焼土面となり１部ではガラス質状に変化している状況が見受けられた。また，この土坑の北側（Ｄ－５区）において，重複する形で直径約1.5m，深さ約50cmの円形状焼成土壙も検出され土坑内側壁には，大形土器片を張りめぐらし，壁面の強化を図っている状況も見受けられた。

これらは自然地形をうまく利用したものであった。

粘土山は台形状を呈し，Ｅ－10区，Ｇ－10区，Ｇ－９区，Ｈ－10区と４ブロツクを検出することができた。主体はＥ－10区のものであり，直径約２m，高さ約１mで粘土はシラスを混入し，かなり精製されたものであった。

井戸跡は，Ｄ－11区に位置し幅約80cm，長さ約1．2m，深さ80cmの長方形状を呈し，伏流水を利用した水溜めであったことがうかがえる。

そのほか焼土面はＧ軸の６～10区を中心とする広範囲に検出することができたが堀り込み等の遺構の確認はできなかった。

一方，Ｂ・Ｃ・Ｄ軸の11・12区においては土器片の集中度が最も大きく，製品的価値を失った土器の投棄を行ったモノワラ的な性格をもつ状態を確認している。

以上のような遺構等の確認からこの遺跡は，土器を製作焼成した遺跡の性格を強くもつものであった。

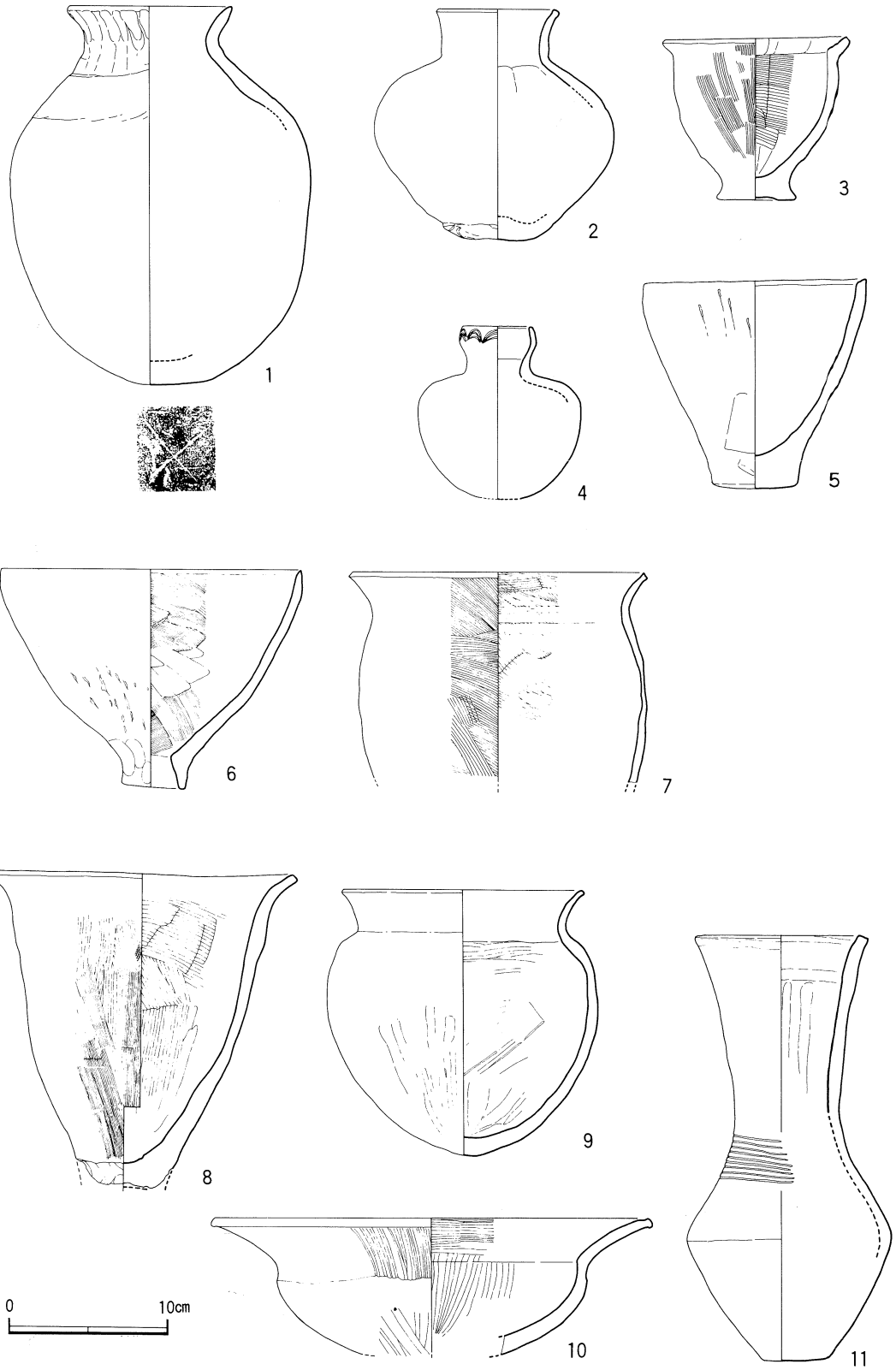
2．土器について

当遺跡の土器は完形品，接合されたもの，破片など，多量の出土をみている。遺跡の立地が傾斜地であったことなどから，その出土状況には他からの混入もみられたが，概ね一時期に堆積された土器群として把えられよう。

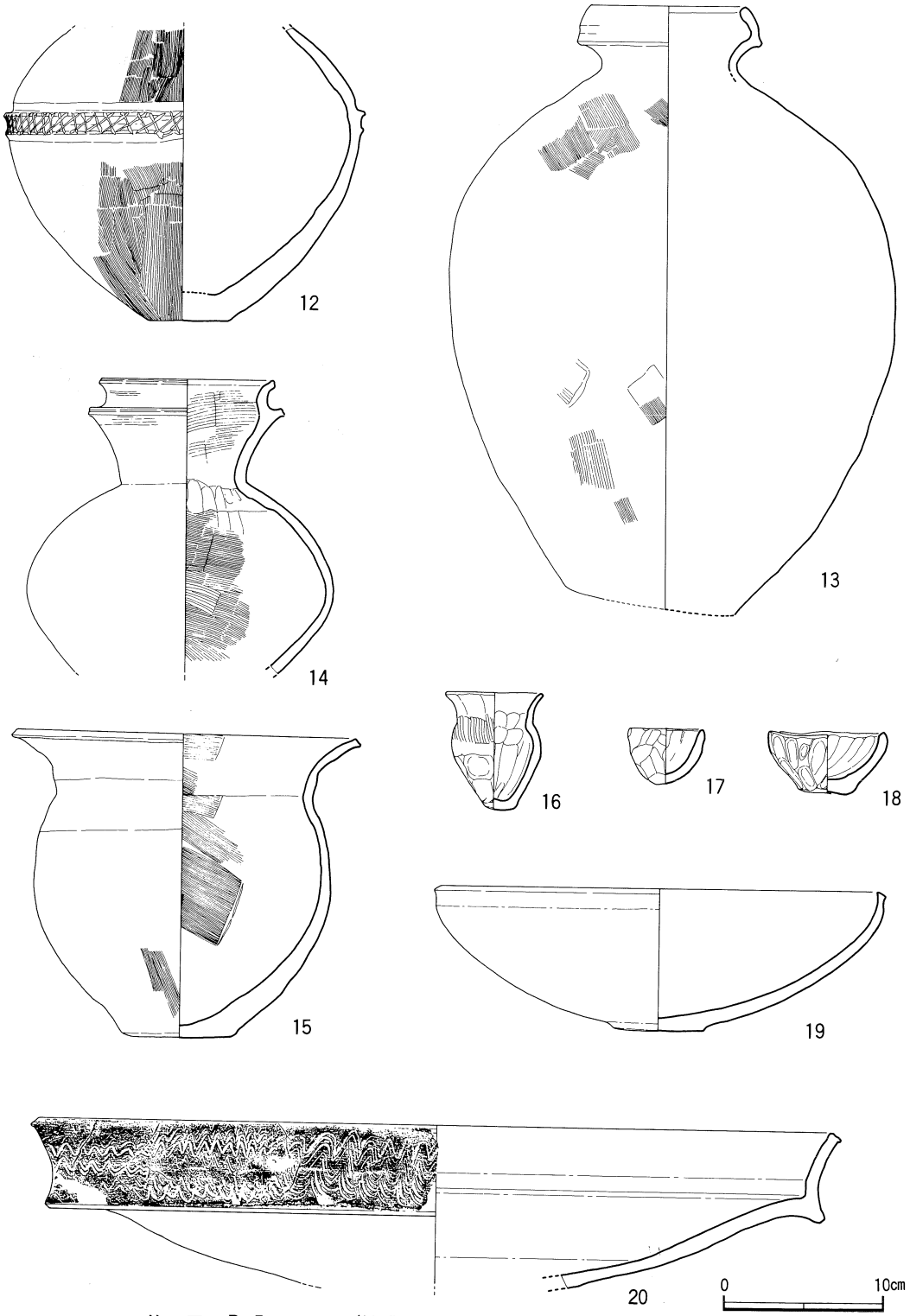
整理当初の段階で，小田富士雄氏に大まかに形成分類していただいたが，その後，作業が進むにつれ，客観的に層位的な土器の選別を行うことは困難な状況となってきている。

器種はバラエティに富んでおり，壷（広口壷・長頸壷・複合口縁壷・長胴壷）・甕・高坏・器台・ミニチュア土器などがある。特に複合口縁壷を中心とした壷類が多く，甕類は全体の土器量に比べて少ない。

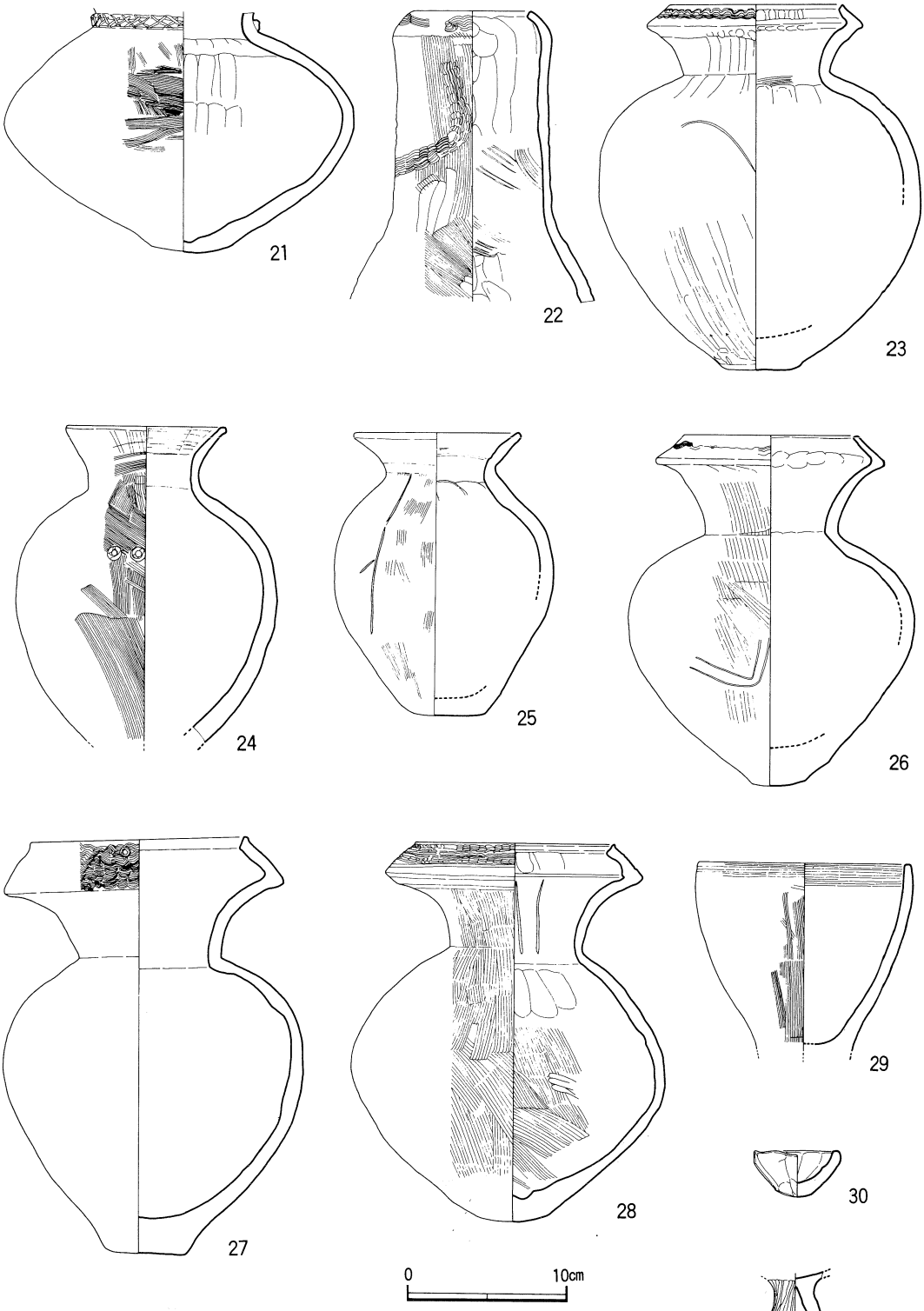
弥生時代後期末～終末期に層する土器群である。



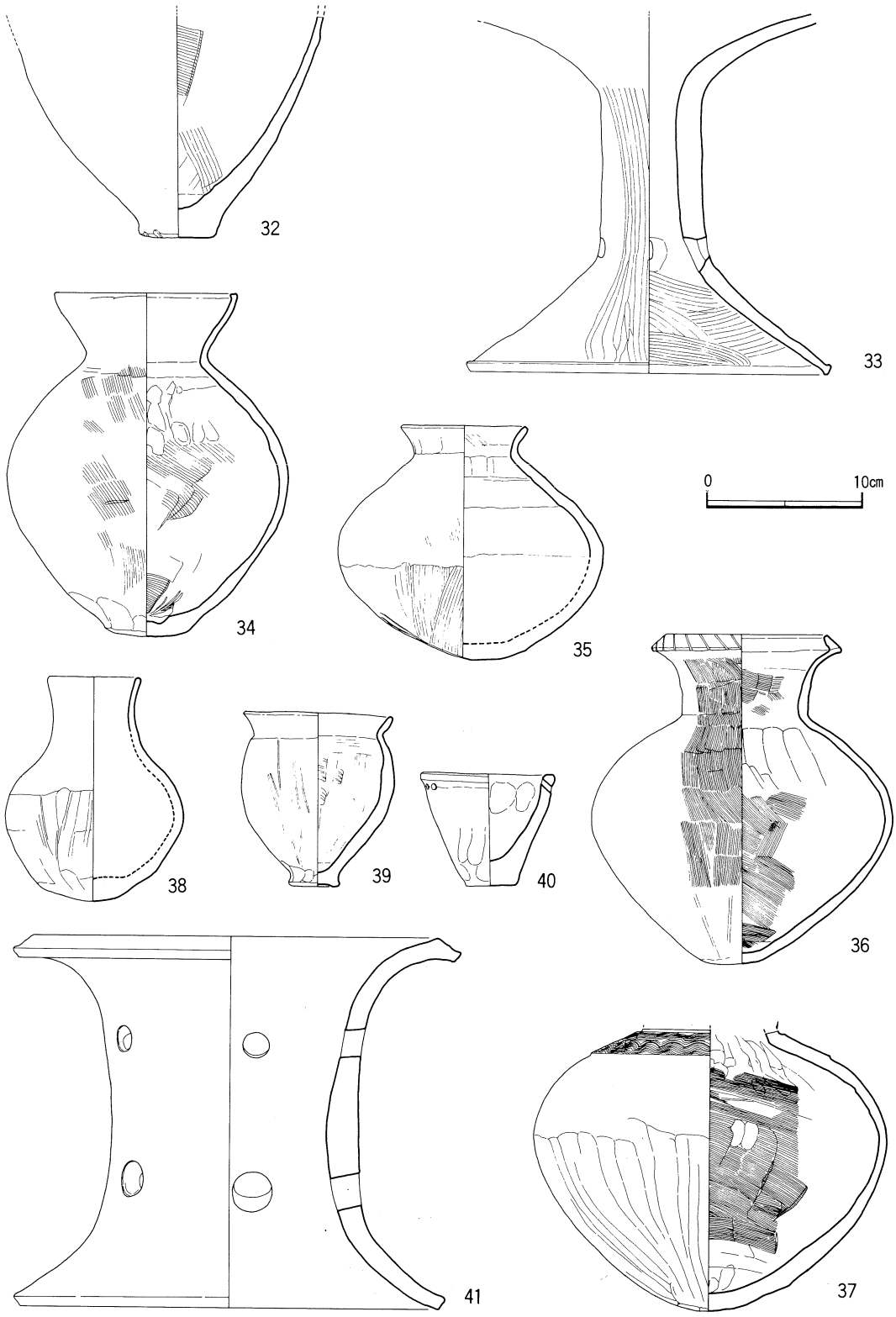
第５図　焼成土坑内出土土器実測図１～11（$\frac{1}{4}$）



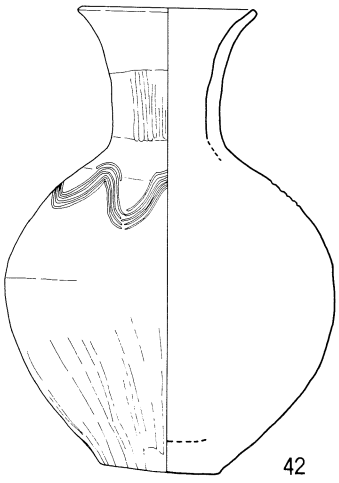
第6図　D-5・C-5区（焼成土坑上面）出土土器実測図19～20（$\frac{1}{4}$）

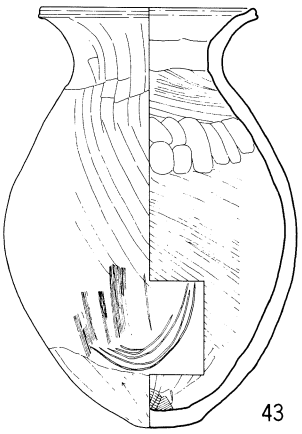


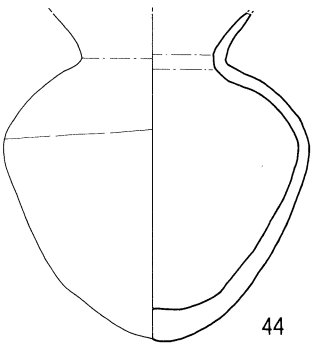
第７図　C-4・D-5区 出土土器実測図21～31（$\frac{1}{4}$）

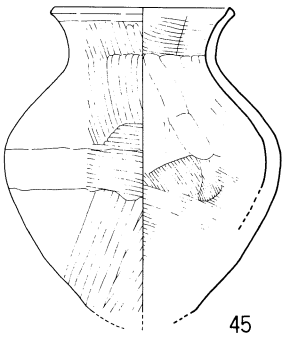


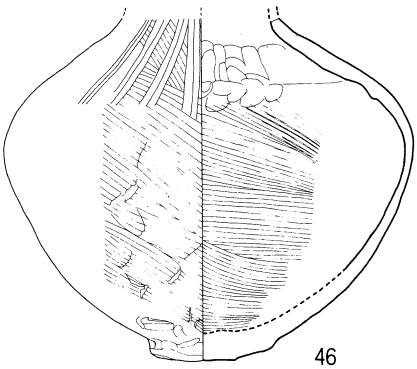
第8図　C-4・D-5・D-6区 出土土器実測図32～41（$\frac{1}{4}$）

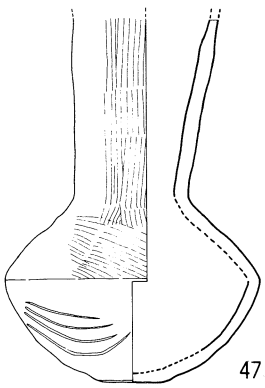


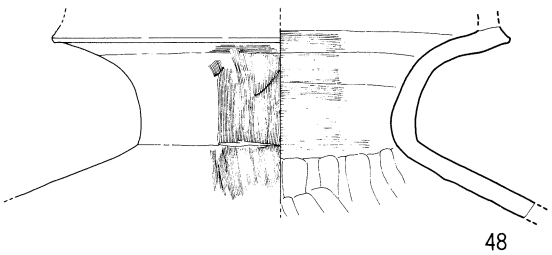


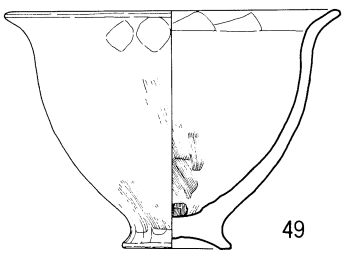


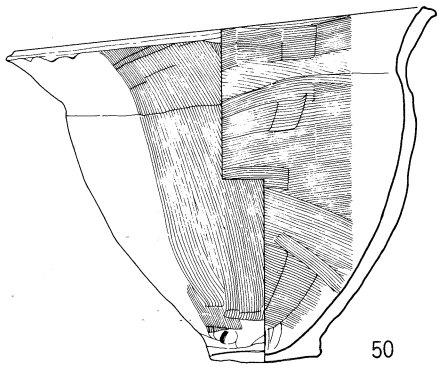




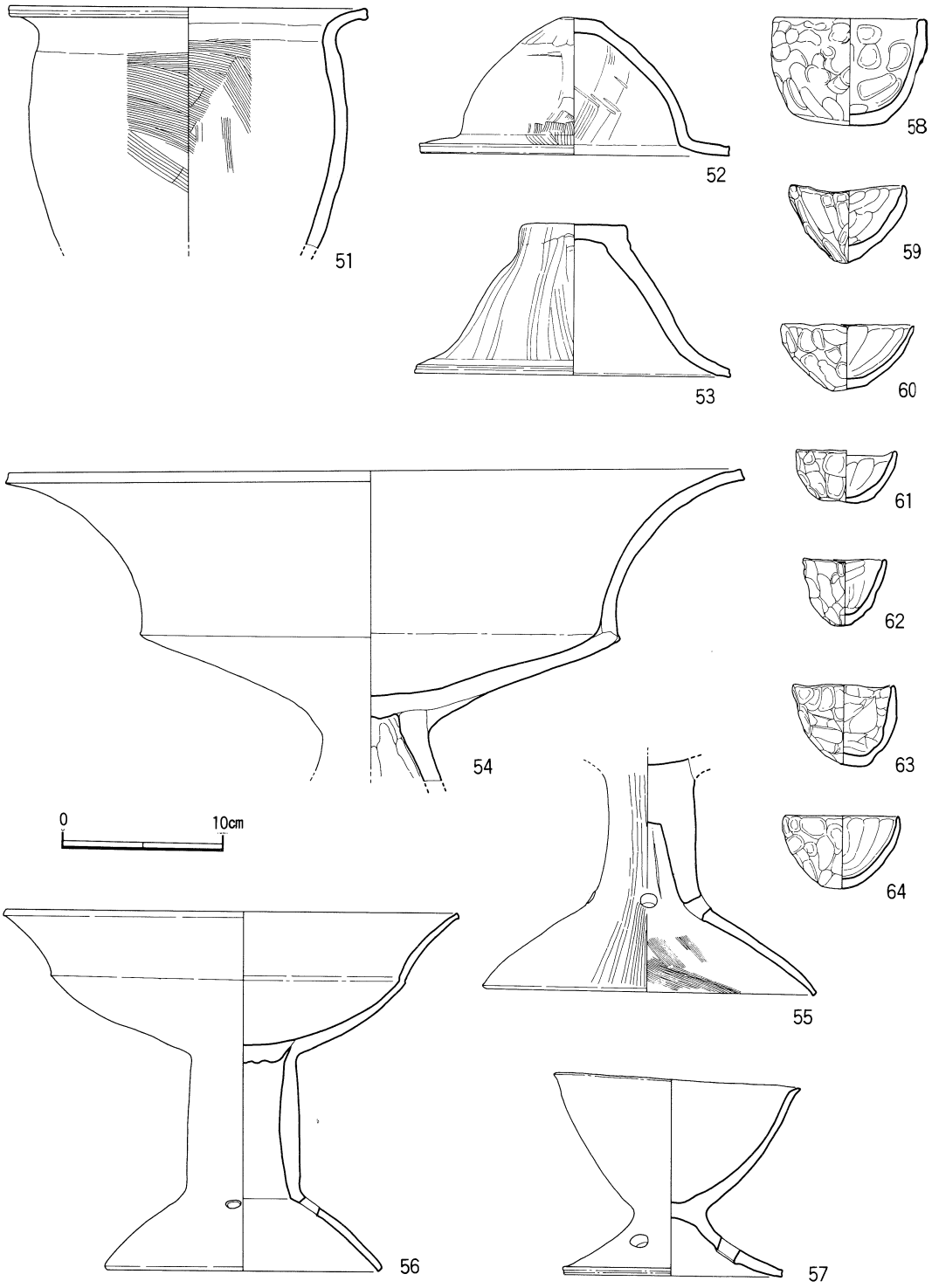




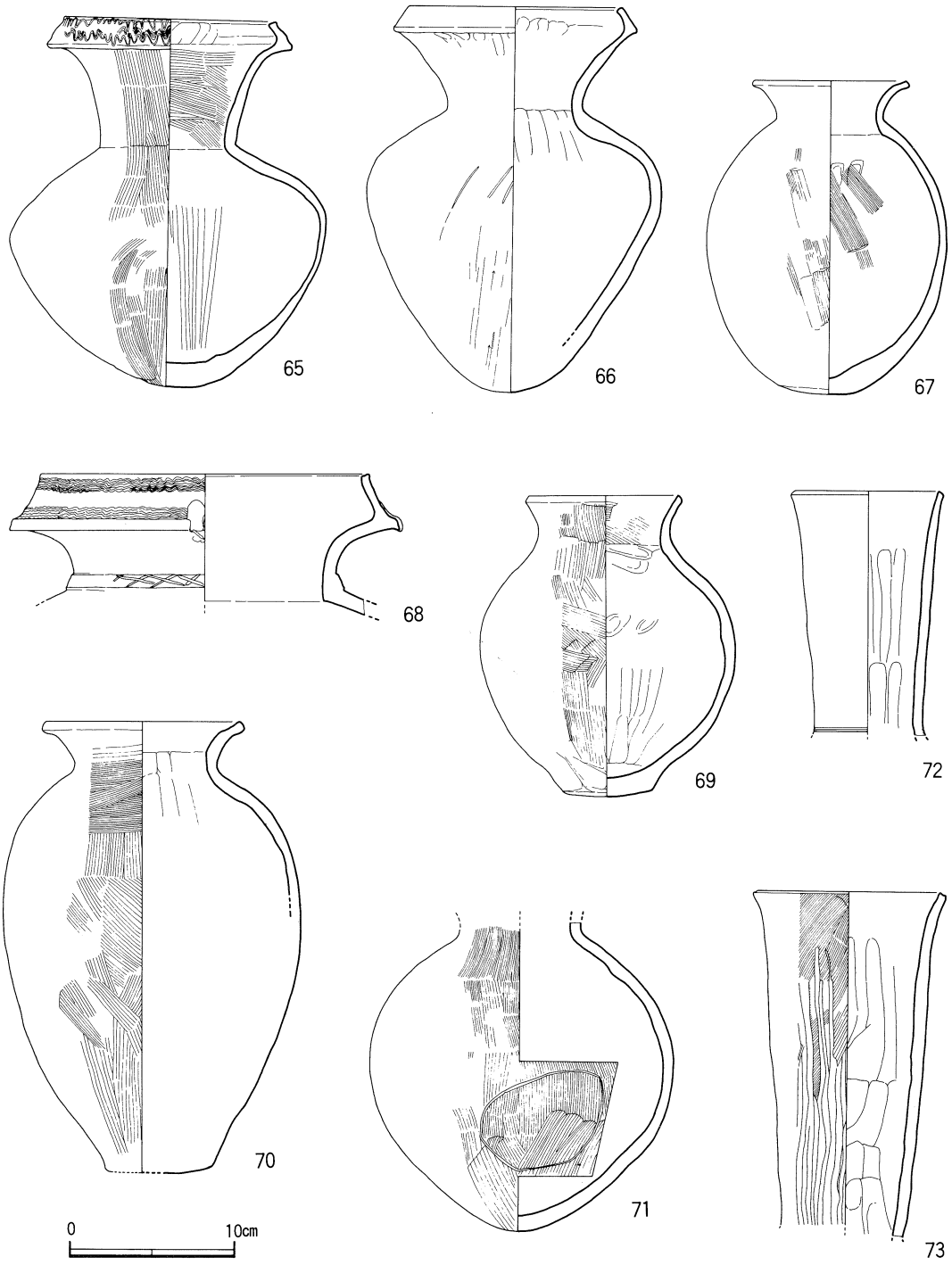




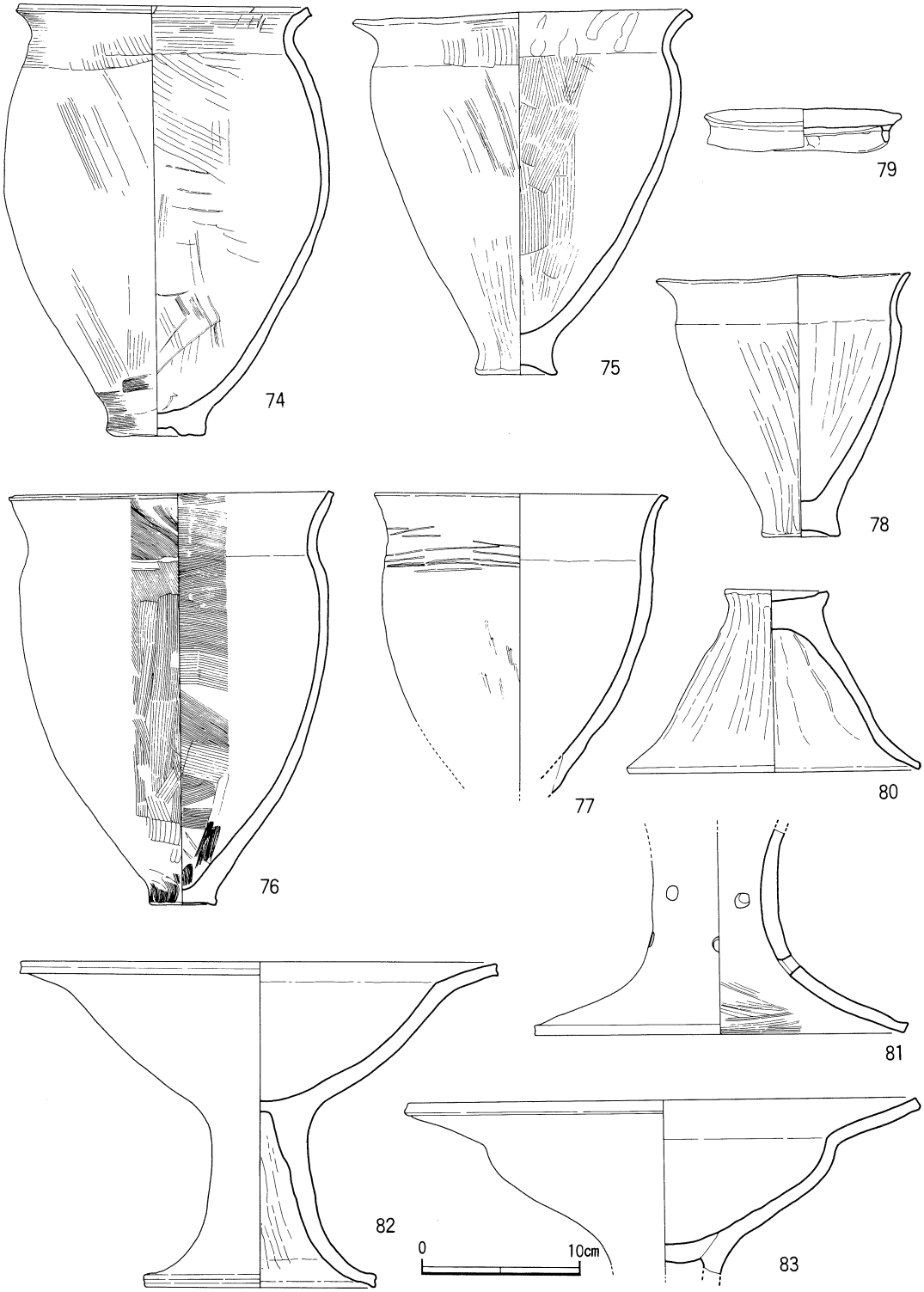
第９図　C-6区 出土土器実測図42～50（$\frac{1}{4}$）



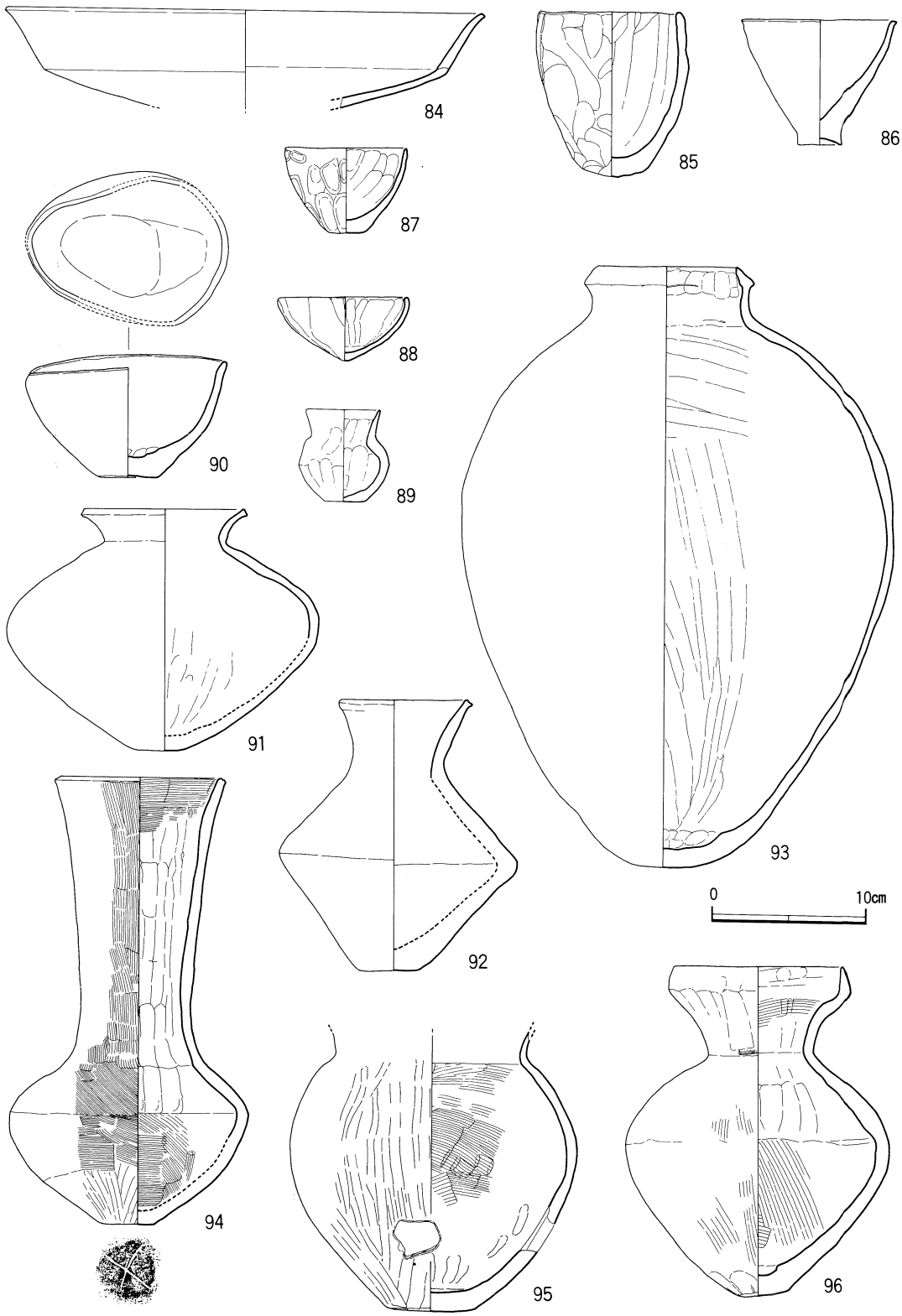
第10図　C-6区 出土土器実測図51～64（$\frac{1}{4}$）



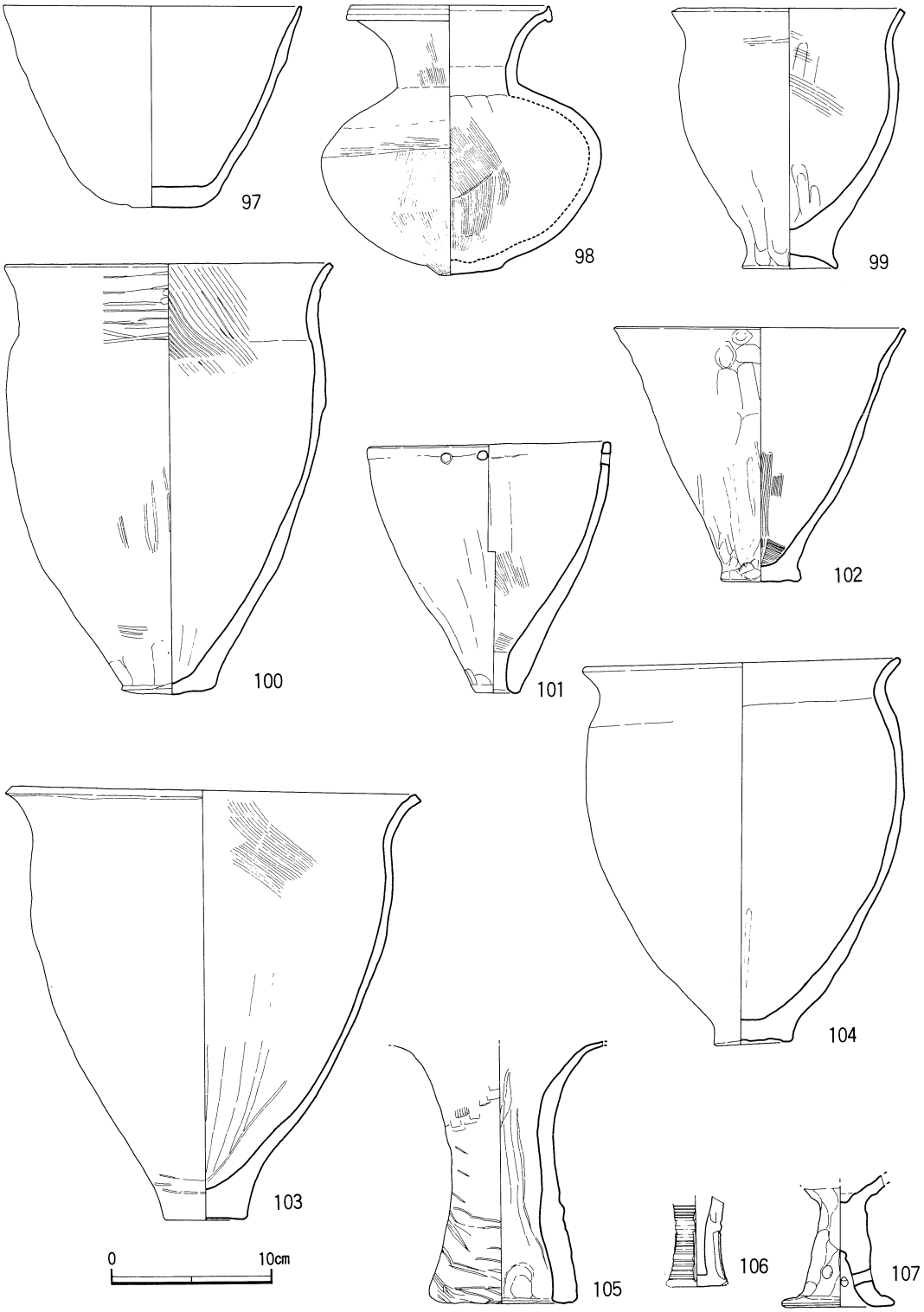
第11図　C-7区 出土土器実測図65～73（$\frac{1}{4}$）



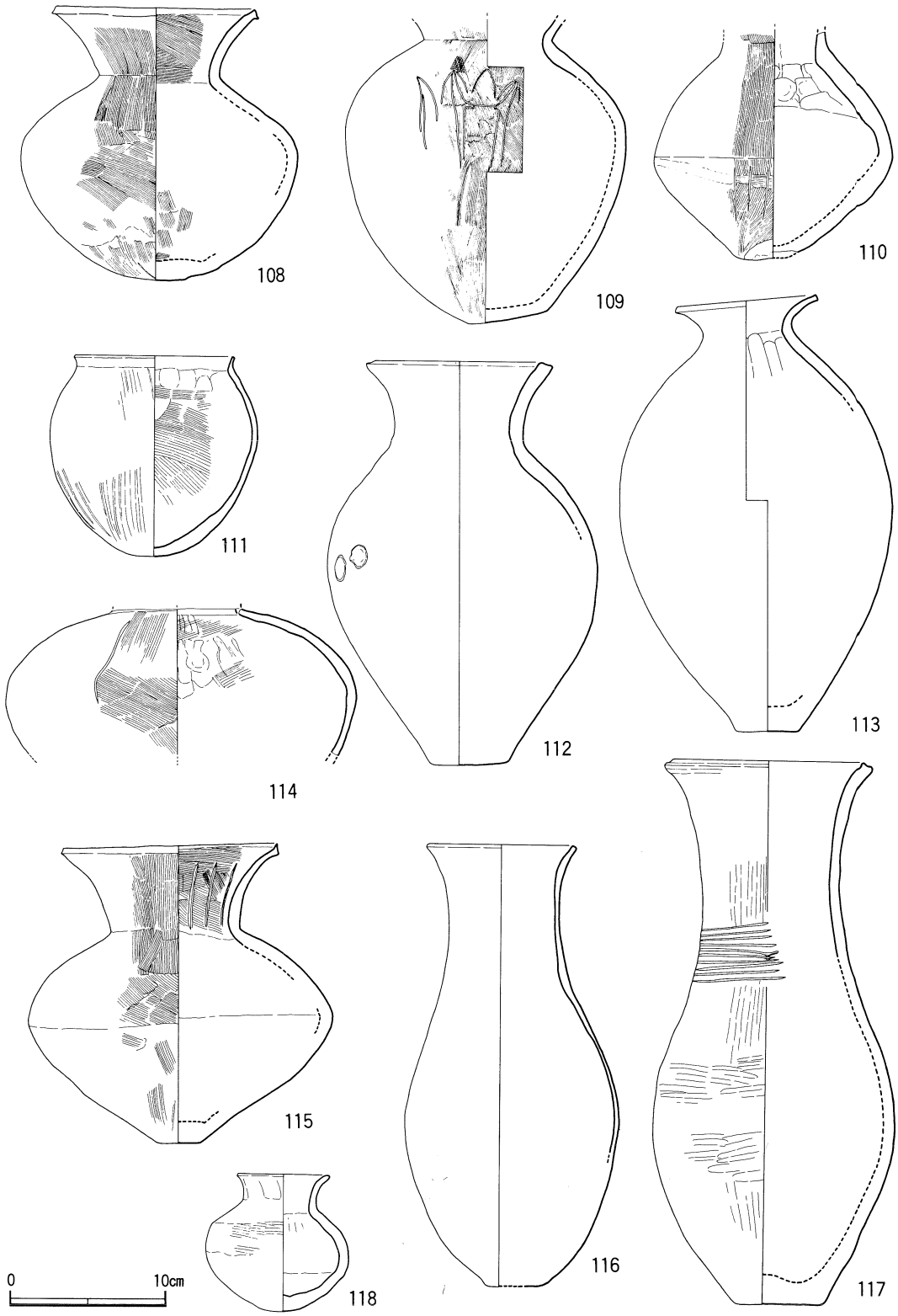
第12図　C-7区 出土土器実測図74～83（$\frac{1}{4}$）



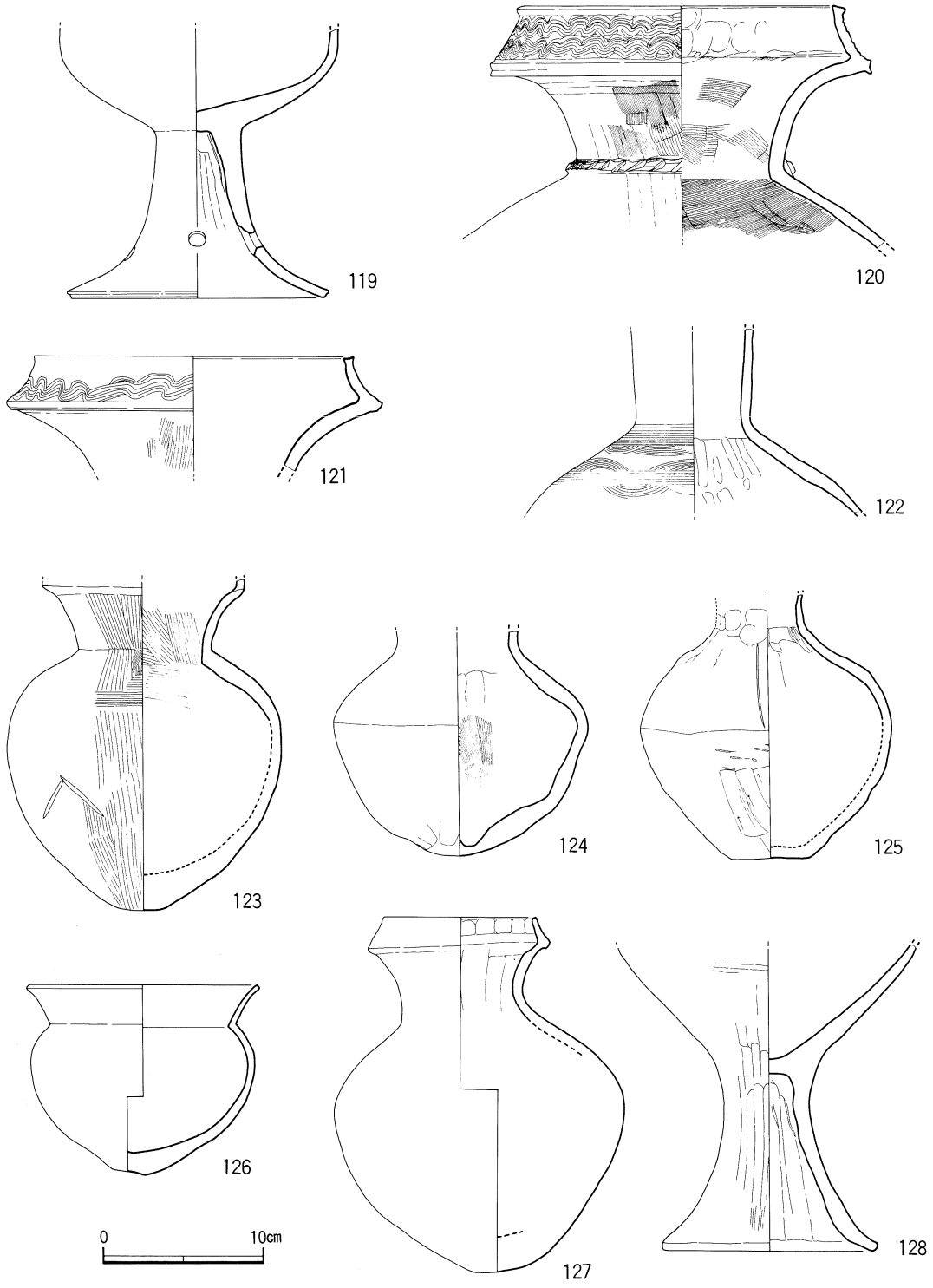
第13図　C-7・D-7区 出土土器実測図84～96（$\frac{1}{4}$）



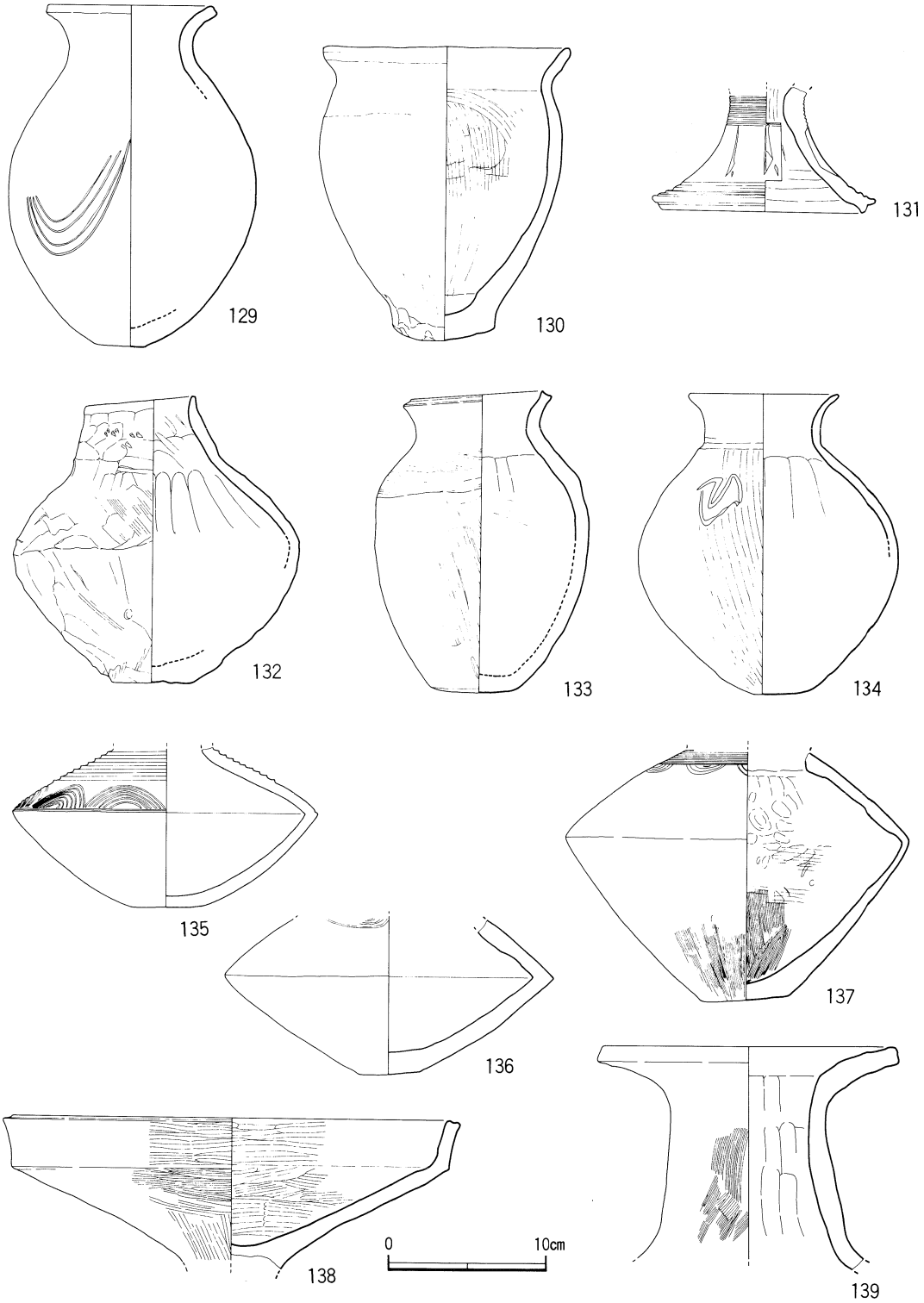
第14図　D-7・E-7・C-8・C-9区 出土土器実測図97～107（$\frac{1}{4}$）



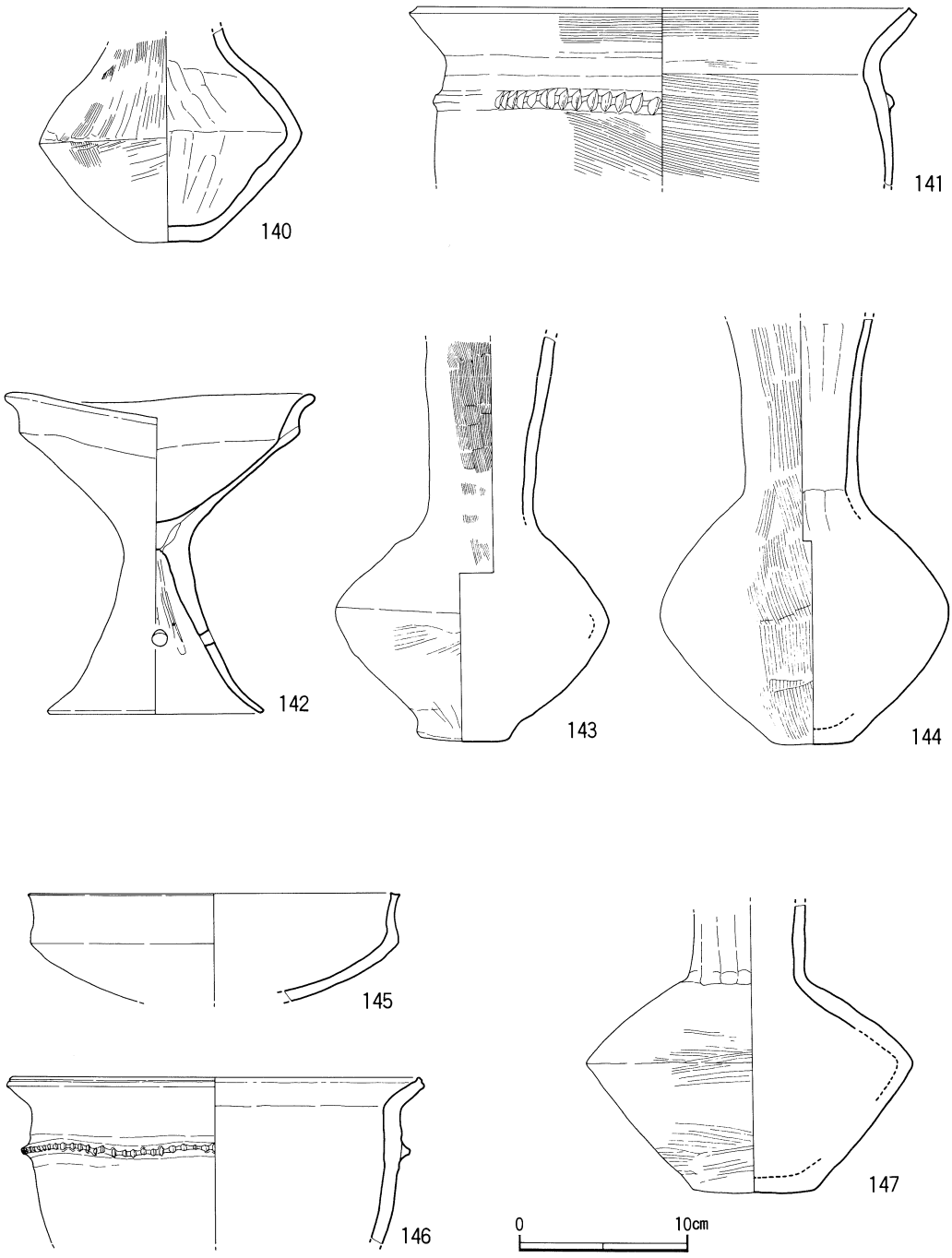
第15図　D-8・D-9区 出土土器実測図108～118（$\frac{1}{4}$）



第16図　D-9・D-10・D-11・C-12区 出土土器実測図119～128（$\frac{1}{4}$）



第17図　C-11・D-12・D-13区 出土土器実測図129～139 （$\frac{1}{4}$）



第18図　E-11・E-12・E-13・F-11区 出土土器実測図140～147（$\frac{1}{4}$）

出土土器一覧表

挿図図番号 番号	器種	出土地点	法量 cm ( )内は推定	形態の特徴	手法の特徴	備考
第5図 図版6 1	壺	D－4区 遺構内	口径 10.4 底径 4.5 器高 24.0	胎土：細砂（ウンモ・角閃石、赤褐色粒子）を含む 焼成：良 色調：赤褐色 底に×線刻文を描く	口縁部は指押さえ、頸部以下はナデ、胴下半に黒斑。	口縁を若干欠く 完形品
第5図 図版6 2	壺	D－5区	口径 7.8 器高 14.9	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：赤褐色 底部に指ナデ痕や条痕(圧痕)	ナデか？（器面が荒れている） 内面は肩部に指押さえ、ほかはナデ。	完形品
第5図 図版6 3	小形甕形土器	D－5区 焼成土坑床部	口径 11.9 底径 5.1 器高10.25	焼成：良 色調：淡黄褐色	外面：タテ方向の細かいハケ目 内面：ヨコ方向ハケ目 底部外面はナデ	口縁の一部と底部端を若干欠損
第5図 図版6 4	小形甕形土器	D－5区 遺構区	口径 4.4 器高 11.0	胎土：精良 細砂を含む 焼成：良 色調：明褐色 内湾する口縁部には櫛描波状文が施されている。	内外面ともにナデ。	$\frac{1}{2}$強欠損 復原図
第5図 図版6 5	鉢形土器 （甕？）	D－5区	口径 14.2 底径 5.4 器高 13.2	胎土：細砂（石英・角閃石・赤褐色粒子）を含む 焼成：良 色調：褐色～淡褐色 下半部は内外面ともに黒灰色を呈す。	外面：ヘラナデ、粘土のひびわれあり。 内面：ヘラナデ 口縁内は指押さえ	口唇部の面が生きているかやや不安あり
第5図 図版6 6	甑形土器	C・D－3区	口径 19.0 孔径 4.0 器高 13.8	胎土：細砂を含む 焼成：良好 色調：明赤褐色 底部が尖がり、ロート状に孔が開いている。	外面：ナデ、粘土のひびわれあり。 内面：斜向の細かいハケ目 孔外面は指ナデ	
第5図 図版6 7	甕	C・D－3・4区	口径(19.0)	胎土：細砂（角閃石、赤褐色粒子）を含む 焼成：良 色調：褐色～灰褐色 外面全体にススが付着	内外面ともにヨコ・斜向のハケ目	胴部上位～底部は$\frac{1}{3}$位欠損 復原図
第5図 図版6 8	甕	D－3区	口径 19.6	胎土：粗い砂粒を多く含む 焼成：良 色調：白っぽい黄褐色	口縁内外ナデ 外面：タテ方向ハケ目 内面：上位で斜向ハケ目 下位でタテ方向ハケ目 ハケ後のナデ	底部欠損 口縁も若干欠く
第5図 図版6 9	甕形土器 （鉢形土器？）	D－4区	口径 15.4 最大径18.15 器高 16.9	胎土：精良 焼成：良 色調：橙褐色	外面：ていねいなナデ（タテ方向） 内面：口縁ではヨコナデ 胴部ではヘラナデ	ほぼ完形に接合
第5図 図版6 10	高坏	C－3区 遺構内	口径(24.0)	胎土：細砂を含む 焼成：良好 色調：赤褐色	内外面ともにヘラミガキ，暗文様を呈する。	復原図
第5図 図版6 11	長頸壺	D－5区	口径(11.0) 底径 4.1 器高 27.0	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：淡黄褐色 口頸部に9条の線刻文。胴下半に黒斑。	口縁内外にヨコナデ 外面：ていねいなヨコナデ 内面：タテ方向にナデ	口縁の一部を欠く

挿図図版番号	器種	出土地点	法量 cm ( )内は推定	形態の特徴	手法の特徴	備考
第6図 図版7 12	壺	D－5区	底径 5.0	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：赤褐色 胴部上位に刻目凸帯、平底	凸帯上下はヨコナデ 外面：細かいハケ目 内面：ていねいなナデ	口縁部欠損 胴部$\frac{1}{3}$ほど欠く
第6図 図版7 13	大形壺	D－5区	口径(9.8) 最大径(28.3) 底径(10.7) 器高38.0	胎土：細砂・粗砂を含む 焼成：良好 色調：淡褐色 口縁部外面に櫛描波状文	外面：ハケ目	口縁と底部はほとんど欠損 胴部は完存
第6図 図版7 14	二重口縁壺	C－5区	口径 11.0 最大径(19.2)	胎土：細砂を少し含む 焼成：良 色調：淡赤褐色	口縁内外面 ハケヨコナデ 胴部外面：ナデ 胴部内面：斜向の細かいハケ目 頸部内面：指ナデ	胴部から底部は欠損
第6図 図版7 15	甕	C－5区	口径(21.9) 底径 6.8	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：赤褐色	外面：ナデ 底部にはハケ目 内面：細かいハケ目	口縁はほとんど欠損 復元図
第6図 図版7 16	小形埦形土器	C・D－5区	口径(6.2) 底径 1.8 器高 7.4	胎土：細砂を多く含む 焼成：良 色調：淡灰褐色 底に黒斑あり	内面：面共にナデ 外面：口縁下にハケ目	$\frac{1}{2}$位欠損 底部は完存
第6図 図版7 17	小形埦形土器 (坏)	C－5区	口径(4.6) 器高 3.5	胎土：細砂・粗砂を含む 焼成：良好 色調：灰褐色	手づくね土器 内外面とも指ナデ	口縁を$\frac{1}{2}$欠損
第6図 図版7 18	小形埦形土器 (坏)	C－5区	口径 7.2 底径 2.5 器高 3.9～4.0	胎土：細砂含む 焼成：良 色調：淡黄褐色	内外面も指ナデ 手づくね土器	完形品
第6図 図版7 19	鉢形土器	C－5区 焼成土坑上面	口径 28.4 底径 5.6 器高 9.0	胎土：粗い砂粒を多く含む 焼成：良 色調：黄褐色～淡赤褐色	ナデか？（磨滅が著しい） 口唇部直下はヨコナデ	$\frac{1}{3}$ほど欠損 復原図
第6図 図版7 20	大形高坏	C－5区 遺構内 焼成土坑上面	底径 (51.0)	胎土：細砂を含む 焼成：良好 色調：赤褐色 口縁部外面に櫛描波状文	外面：ヨコ・斜向ハケ目 内面：ヨコ・タテのヘラミガキ	脚部を欠く 坏部も$\frac{1}{2}$ほど欠く
第7図 図版8 21	壺	C－4区	底径 4.8	胎土：細砂・赤褐色粒子を含む 焼成：良 色調：明赤褐色 頸部に刻目凸帯をめぐらす	外面：上位に細かいハケ目 下位に粗いハケ目 内面：指ナデ後ハケ目 下位はミガキ様のていねいなナデ	口縁部と胴部を$\frac{1}{2}$位欠損
第7図 図版8 22	長頸壺 口縁部	C－4区	口径 (7.4)	焼成：良好 色調：明るい黄褐色 外面にヨコからタテにのびる2本の櫛描波状文、口唇直下に櫛描波状文	外面：タテ・斜向ハケ目 内面：指ナデ痕	復原図

挿図図版番号	器種	出土地点	法量 cm ( )内は推定	形態の特徴	手法の特徴	備考
第7図 図版8 23	二重口縁壺	D－5区	口径(10.8) 最大径10.15 器高 22.9	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：淡黄褐色～赤褐色 胴部上位に ∩ 状の線刻文	外面：上位ナデ 下位ヘラナデ 内面：指押さえ、ナデ	胴の一部を若干欠く、ほぼ完全に接合。
第7図 図版8 24	広口壺	D－5区	口径 10.0	胎土：赤褐色粒子、石英を含む 焼成：良好 色調：淡褐色～灰褐色 胴部上位に竹管文を2個施す。	外面：ハケ目 内面：ナデ	$\frac{1}{3}$ほど欠損
第7図 図版8 25	広口壺	D－5区 焼成土坑床部 下粘土中	口径 10.5 底径 4.5 器高 17.7	胎土：細砂、粗砂を多く含む 焼成：良 色調：赤褐色～灰褐色 胴部に一条の線刻文	外面：ハケ目(磨滅著しい) 内面：ナデ	ほぼ完形
第7図 図版8 26	二重口縁壺	D－5区 焼成土坑床部 下粘土下層	口径 14.4 最大径 17.9 器高 22.0	胎土：砂粒を含む、精良。 焼成：良 色調：赤褐色 胴下位に ∪ 状の線刻文	外面：ハケ目 内面：ナデ	ほぼ完形
第7図 図版8 27	二重口縁壺	D－5区	口径(13.6) 底径(5.1) 器高 25.9	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：赤褐色 口縁部に竹管文を一個施す。	磨滅の為、調整不明 内面：ナデ	口縁と底部の一部を欠損
第7図 図版8 28	二重口縁壺	D－5区	口径 13.0 最大径 19.7 器高 23.6	胎土：精良、細砂を含む。 焼成：良好 色調：淡褐色 口縁内にタテに2条線刻文あり	外面：ハケ目 内面：口縁部ハケ目 胴部指ナデ、ハケ目	完形に接合
第7図 図版8 29	小形甕形土器 (鉢？)	D－5区	口径 13.4 器高(12.0強)	胎土：細砂を含む 焼成：良好 色調：淡褐色	外面：タテ方向ハケ目 内面：ヨコナデ 口縁内ナデ	底部欠損
第7図 図版8 30	小形埦形土器 (坏)	D－5区	口径 5.4 器高 2.9	胎土：粗砂を含む 焼成：良 色調：淡褐色	手づくね土器 内外共に指ナデ	完形
第7図 図版8 31	小形高坏脚	D－5区 焼成土坑床部 下粘土中	脚裾径 7.1	胎土：細かい砂を含む 焼成：良 色調：淡褐色 穿孔は5個	坏部内面：ミガキ様のナデ 脚部：タテ方向のミガキ 内側にしぼり痕	
第7図 図版9 32	甕	C－4区	底径 4.9	胎土：細砂、赤褐色粒子を含む 焼成：良 色調：黄褐色 底のふちに棒状のものの圧痕(4個)がきざまれている。	外面：板状工具の小口痕 内面：板状工具の小口痕 粗いハケナデ	
第8図 図版9 33	器台	D－5区	裾径(23.5)	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：明褐色 穿孔3個あり	外面：ヘラミガキ 内面：上位ナデ 脚裾粗いハケ目	$\frac{1}{2}$欠損

挿図図版番号	器種	出土地点	法量 cm ( )内は推定	形態の特徴	手法の特徴	備考
第8図 図版9 34	壺	D－6区	口径 11.8 最大径 18.2 器高 22.3	胎土：細砂、赤褐色粒子を含む 焼成：良 色調：赤褐色	口縁内外ヨコハケ後ナデ 外面：タテ方向ハケ目 内面：上位指ナデ、下半はヘラナデ	$\frac{1}{2}$ほど欠損
第8図 図版9 35	壺	D－6区	口径 8.2 最大径 17.2 器高 15.7	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：淡黄褐色	口縁内外ナデ 外面：上半ハケ目、下半は粗いハケ目。 内面：頸部から肩部に指ナデ痕	指ナデが雑で粘土のつぎ目がみえる。
第8図 図版9 36	二重口縁壺	D－6区	口径(10.3) 最大径 19.4 器高 21.4	胎土：細かい石英粒を含む 焼成：良 色調：淡赤褐色 口縁に刻み目が施されている。 外面に黒斑。	外面：タテ方向の細かいハケ目 口縁直下はヨコナデ 内面：斜向ハケ目 胴上半は指ナデ	口縁部$\frac{1}{2}$位欠損
第8図 図版9 37	壺	D－6区	頸部径 (8.7) 最大径(22.7)	胎土：細砂を含む 焼成：良好 色調：外面黄褐色、内面灰褐色 膨みをもった胴部上半に台状のケズリだしがあり、そこに細かい波状文	外面：タテ方向ミガキ 内面：頸部直下に指ナデ，全体に板状工具の小口によるヨコハケナデ	$\frac{1}{2}$強欠損 復原図
第8図 図版9 38	小形壺形土器	D－6区 粘土中	口径 9.6 器高 11.3	胎土：砂粒を含む 焼成：良 色調：赤褐色 底部内面にしぼり痕あり。	外面：タテハケナデ 内面：口縁部ナデ 肩部指ナデ 下半ハケナデ(板状工具)	完形品
第8図 図版9 39	小形甕形土器	D－6中 粘土中	口径 6.0 最大径 11.5 器高 14.5	胎土：粗い砂粒を多く含む 焼成：良 色調：灰褐色	口縁内外ナデ 外面：粗いハケ後ナデ 内面：ナデ後ヨコ方向の粗いハケ目	口縁を若干欠く 完形品
第8図 図版9 40	小形甕形土器	D－6区 黄褐色粘質 土層上面	口径 8.7 底径 3.1 器高7.1～7.4	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：赤褐色 口唇直下に穿孔(2個で一対)あり	内外面共に指ナデ	完形品
第8図 図版9 41	器台	D－6区	受け部径 28.9 脚裾径 27.7 器高 24.0	胎土：細砂を含む 焼成：良好 色調：黄褐色～橙色 透かし孔が上下に10個(5×2)	受け部端の内外面はヨコナデ、裾端も同じ。 外面：下半にヨコ方向ミガキ 内面：ていねいなナデ	口縁部$\frac{1}{2}$欠損 裾部若干欠く
第9図 図版10 42	壺	C－6区	口径 9.7 底径 6.5 器高 25.3	胎土：やや粗い砂粒を含む 焼成：良 色調：赤褐色 口縁部に波状文がめぐる	口縁部内外共にヨコナデ 外面：胴部全体にミガキ	口縁端部はほとんど欠損
第9図 図版10 43	壺	C－6区	口径 10.0 最大径 15.9 底径 3.5 器高 22.9	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：赤褐色 胴下半に連弧状の線刻文(4本)	口縁部内外ともにヨコナデ 胴部外面：タテ方向ヘラナデ、下半はケズリ状 内面：肩部は指ナデ 他は粗いハケ目	胴部を若干欠く ほぼ完形
第9図 図版10 44	壺	C－6区	最大径 16.5	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：赤褐色	ナデか？ 磨滅の為、調整不明。	口縁をほとんど欠く

挿図図版番号	器種	出土地点	法量 cm	形態の特徴	手法の特徴	備考
第9図 図版10 45	壺	C－6区	口径(10.0) 器高(17.0 ～18.0)	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：明褐色 外面、底部近くが灰黒色に変色。	口縁端部内外はヨコナデ 外面：ヘラミガキ(粗いハケナデ？) 内面：口縁部粗いヨコハケ目 肩部指ナデ、下半にハケ目	1/2位欠損 底部を欠く 復原図
第9図 図版10 46	壺	C－6区	最大径(22.2) 頸部径(8.6)	胎土：細砂を含む 焼成：良好 色調：淡赤褐色 最大径の位置に黒斑あり。	外面：斜向の粗いハケ目の後ヘラミガキ様のタテハケ目 内面：肩部に指押え、下半に粗い斜向ハケ目	口縁を欠く 胸部の1/2を欠く 底部は完存
第9図 図版10 47	壺	C－6区	最大径 13.8 底径 3.9	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：赤褐色 胴部下半に弧状に線刻文を施す。	口縁から胴部上半は粗いハケ目 下半はナデ 内面：ナデ	口縁端を欠損
第9図 図版10 48	二重口縁壺	C－6区		胎土：粗砂を多く含む 焼成：良 色調：淡褐色～黄褐色	外面：タテ方向細かいハケ目 内面：ヨコ方向ハケナデ 頸部から肩部に指ナデ	口縁の立ち上がりと胴部を欠く
第9図 図版10 49	甕	C－6区	口径(18.2) 底径 5.9 器高 12.9	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：淡黄褐色	外面：ハケナデ 口縁外指ナデ痕 内面：ハケ目 口縁内は指ナデ後、ヨコ方向ハケ目。	口縁部欠損 復原図
第9図 図版10 50	甕	C－6区	口径 23.4 底径 6.0 器高 17.0 ～19.3	胎土：粗砂を多く含む 焼成：良 色調：淡黄褐色 口縁端部の整形が雑で粘土がたれている。	外面：タテ方向、内面ヨコ方向の粗いハケ目。 肩部：指ナデ痕	口縁の一部と胴部若干欠損
第10図 写真なし 51	甕	C－6区	口径(22.4)	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：暗褐色 (内面は明褐色)	口縁内外ヨコナデ 内外共に横、斜向の細かいハケ目。 外面全体にスス付着	1/3ほどの破片 復原図
第10図 図版11 52	蓋形土器	C－6区	口径(19.3) 器高 8.6	胎土：細砂を多く含む 焼成：良好 色調：黄褐色 胴部外面と口縁部内面に黒斑	口唇部ヨコハケナデ 口縁外面タテ方向ハケ目 胴部：ハケ後ミガキ 内面：ミガキ	1/2以上欠損
第10図 図版11 53	蓋形土器	C－6区	口径(19.8) 器高 9.5	胎土：細砂を含む 焼成：良好 色調：灰褐色	外面：タテ方向ヘラナデ 内面：ミガキ 口縁内外ヨコナデ	口縁部から体部にかけて欠損 復原図
第10図 図版11 54	高坏	C－6区	口径(45.6)	胎土：細砂を含む 焼成：良好 色調：赤橙色 口縁部立ち上がり内側に黒斑	内外共にヨコ方向ヘラミガキ	
第10図 図版11 55	高坏脚	C－6区	脚裾径(20.7)	胎土：細砂を多く含む 焼成：良 色調：明赤褐色 透かし孔4個，脚柱下部にあり	外面：ミガキ様タテ方向ナデ 内面：細かいハケ目 しぼり痕あり。	脚裾部1/2程欠損

挿図図版番号	器量	出土地点	法量 cm ( )内は推定	形態の特徴	手法の特徴	備考
第10図 図版11 56	高坏	C－6区	口径(28.4) 脚裾径 17.2	胎土：細砂を含む 焼成：良好　色調：淡褐色 脚と坏部を一度に作り後で坏の底を粘土でふさいで整形。	坏部外面ナデ 内面ミガキ様ナデ 脚部外面ミガキ 内面ナデ	脚部に穿孔 (3個) 脚裾部$\frac{1}{3}$程欠損
第10図 図版11 57	脚台付坏	C－6区	口径 15.4 脚裾径 13.2 器高 11.8 ～12.6	胎土：細砂を含む 焼成：良好　色調：淡赤褐色 坏部と脚部は別々に作っている。 透かし孔は3個	ナデか？(器面が荒れ、不明) 脚裾端部ヨコナデ 内側はナデ	
第10図 図版11 58	小形埦形土器	C－6区	口径 9.3 底径 6.2 器高 6.7	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：淡褐色	全体的に磨滅 指押さえ後ナデ	完形品
第10図 図版11 59	小形埦形土器 (坏)	C－6区	口径 7.1 器高 4.6 ～4.9	胎土：粗砂、細砂を含む 焼成：良 色調：淡褐色～灰黒色	手づくね土器 指押さえナデ	完形品
第10図 図版11 60	小形埦形土器 (坏)	C－6区	口径 8.2 器高 3.2	胎土：細砂、粗砂を多く含む 焼成：良 色調：淡褐色	手づくね土器 指押さえ後ナデ	$\frac{1}{2}$弱ほど欠損 口縁～底部まではそろっている
第10図 図版11 61	小形埦形土器 (坏)	C－6区	口径 6.2 器高 3.3	胎土：細砂、粗砂を多く含む 焼成：良 色調：淡赤褐色	手づくね土器 指押さえ後ナデ	ほぼ完存
第10図 図版11 62	小形埦形土器 (坏)	C－6区	口径 5.2 器高 4.2	胎土：細砂、粗砂を多く含む 焼成：良 色調：淡黄褐色	手づくね土器 内外面に指押さえナデの痕	完形品
第10図 図版11 63	小形埦形土器 (坏)	C－6区	口径 6.2 器高 5.1	胎土：細砂、粗砂を多く含む 焼成：良 色調：淡黄褐色 外面に巾3～4cmの黒斑	手づくね土器 指押さえ後ナデ	完形品
第10図 図版11 64	小形埦形土器 (坏)	C－6区	口径(5.0) 器高 4.6	胎土：細砂を多く含む 焼成：良 色調：淡灰褐色、内面は淡黄褐色	手づくね土器 指押さえナデ	約$\frac{1}{4}$弱欠損
第11図 図版12 65	二重口縁壺	C－7区	口径 12.9 最大径 19.3 器高 22.4	胎土：細砂を多く含む 焼成：良 色調：淡黄褐色 口縁部に細い波状文がめぐる。	外面：ハケ目(タテ) 内面：ハケ目 口縁部(ヨコ) 胴部(タテ)	脚部を少し欠くほぼ完存
第11図 図版12 66	二重口縁壺	C－7区	口径 13.0 器高 23.5	胎土：細砂を多く含む 焼成：良 色調：明赤褐色	外面：下位に上方向のケズリ状調整 内面：指押さえ、指ナデ痕	口縁部欠損 復原図

挿図図版番号	器種	出土地点	法量 cm ( )内は推定	形態の特徴	手法の特徴	備考
第11図 図版12 67	広口壺	C－7区	口径(9.6) 最大径 14.6 底径 4.5 器高 20.1	胎土：細砂、粗砂を含む 焼成：良 色調：淡褐色	外面：粗いハケ目 内面：細かいハケ目	口縁部$\frac{1}{2}$強欠く 反転復原図
第11図 図版12 68	二重口縁壺	C－7区	口径(20.0)	胎土：精良,細砂、赤褐色粒子を含む 焼成：良 色調：淡褐色 口縁部立ち上がりに粘土を貼り、ひびわれを補修している。	内外面共にナデ	口縁部破片 反転復原図
第11図 図版12 69	広口壺	C－7区	口径(9.3) 底径 5.5 器高 18.4	胎土：粗砂、細砂を多く含む 焼成：良 色調：淡褐色	外面：タテ方向ハケ目 内面：口縁はヨコ・斜向ハケ目 胴部指ナデ	胴の一部と口縁部の$\frac{2}{3}$位欠損
第11図 図版12 70	長胴広口壺	C－7区	口径 12.3 底径 6.4 器高 27.6	胎土：細砂(石英、角閃石)を含む 焼成：良 色調：淡褐色	外面：口縁から肩部はヨコ方向のハケナデ 他はハケ目。 内面：口縁ヨコナデ 他は指ナデ	口縁と底を若干欠く ほぼ完形
第11図 図版12 71	壺	C－7区	頸部径 7.7 最大径 18.5	胎土：精良 細砂を含む 焼成：良 色調：淡褐色 胴部下位にだ円形の線刻文。	外面：上位細かいハケ目 下位ケズリ状の粗いハケ目。 内面：口縁部直下指ナデ、以下細かいハケ目。(ヨコ→タテ)	口縁を除いて ほぼ完形に接合
第11図 図版12 72	長頸壺口縁	C－7区	口径(9.3)	胎土：精良 細砂を含む 焼成：良 色調：暗灰褐色 胴部との境に二条の細い沈線をめぐらす。	外面：ミガキ 内面：指ナデ	口縁部のみ ($\frac{1}{2}$位欠損)
第11図 図版12 73	長頸壺口縁	C・D－7区	口径 11.7	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：褐色	外面：細かいハケ目の後上からヘラミガキ 内面：指押さえの後タテ方向指ナデ	
第12図 図版13 74	甕	C－7区	口径 18.6 底径 6.2 器高 27.2	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：灰褐色	外面：口縁部タテハケ目、ヨコハケナデ、他はハケナデ。 内面：口縁部ハケヨコナデ 胴部 ケズリ様ナデ (ハケ原体使用)	完形品 胴中位が帯状に黒変している。 (スス？)
第12図 図版13 75	甕	C－7区	口径 21.5 器高 23.0	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：淡褐色 底部が黒く変色	外面：口縁はタテ方向ハケ目の後ヨコ方向ナデ 内面：口縁部指ナデ 胴部はヘラナデ	ほぼ完形に接合
第12図 図版13 76	甕	C－7区	口径(20.5) 器高 26.0 底径 4.2	胎土：細砂を多く含む 焼成：良好 色調：淡褐色	外面：細かいハケ目 内面：ヨコ方向の細かいハケ目 下位はタテ方向にナデ	口縁～胴部が、 $\frac{1}{2}$程欠損 復原図
第12図 図版13 77	甕	C－7区	口径 18.6 器高(19.0)	胎土：粗砂、細砂を含む 焼成：良 色調：淡褐色～赤褐色	外面：口縁にタタキ目様のシワ。端部はナデ 胴部ケズリ状調整 内面：ナデ (下→上)	胴部と口縁を少し欠く 底部欠損

挿図図版番号	器種	出土地点	法量 cm ( )内は推定	形態の特徴	手法の特徴	備考
第12図 図版13 78	甕	C－7区	口径 16.2 底径 5.0 器高 16.6	胎土：細砂、赤褐色粒子を多く含む 焼成：良 色調：淡褐色～橙色 胴下位に黒斑	口縁内外ナデ 胴部外面巾5～7㎜の下から上へのヘラナデ 内面：ナデ	完形品
第12図 図版13 79	蓋？	C－7区	口径 11.3 ～11.5	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：淡褐色 口縁のつけ根に対称に一対の穿孔あり。	外面：ミガキ 内面：立ち上がりのつけ根は指押え→ヨコナデ、他はミガキ様ナデ	完形品 穿孔は焼成前
第12図 図版13 80	蓋形土器？	C－7区	口径 18.6 頂部径 6.6 器高 12.6	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：赤褐色	外面：ヘラナデ 口縁内外ヨコナデ 内面：ナデ	完形品
第12図 図版13 81	器台	C－7区	裾径(23.6)	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：明褐色 透かし孔は現存するもので8個（4×2）	外面：タテ方向ミガキ 内面：上位ミガキ 裾部ハケ目	$\frac{1}{3}$弱欠損 受け部を欠く
第12図 図版13 82	高坏	C－7区 遺構内	口径30.0 ～30.2 脚裾径 14.6 器高 20.6	胎土：細砂を少し含む 焼成：良 色調：赤褐色～くすんだ褐色	口縁内と口唇部ヨコナデ 外面：ナデ 脚端部ヨコナデ 内面：しぼり痕	坏部を$\frac{1}{3}$位欠く
第12図 図版13 83	高坏	C－7区	口径(32.6)	胎土：細砂・粗砂を多く含む 焼成：良 色調：淡赤褐色 内側に黒斑	外面：ヨコナデ、ナデ 内面：ヨコ方向のミガキ	口縁も$\frac{1}{2}$程欠く 復原図
第12図 図版13 84	高坏	C－7区	口径(31.0)	胎土：石英粒を少し含む 焼成：良 色調：明赤褐色	器面が荒れており不明瞭，内外共にミガキか？	反転復原図
第13図 図版14 85	小形埦形土器	C－7区	口径 9.1 器高 10.7	胎土：細砂を多く含む 焼成：良好 色調：赤褐色 底部は黒灰色 底にはわら状のせんい痕あり	内外面共に指ナデ	完形品
第13図 図版14 86	小形埦形土器	C－7区	口径 10.0 底径 3.0 器高 8.0	胎土：粗砂多し 焼成：良 色調：黄褐色 口縁内外に黒斑あり	内外面共にナデ	完形品
第13図 図版14 87	小形埦形土器 (坏)	C－7区	口径(8.0) 底径(2.2) 器高 5.6	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：灰褐色	内外共に指ナデ （手づくね土器）	
第13図 図版14 88	小形埦形土器 (坏)	C－7区	口径(8.5) 器高 4.1	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：明褐色	手づくね土器 内外面共に指ナデ	$\frac{1}{2}$弱欠損

挿図図版番号	器種	出土地点	法量 cm ( )内は推定	形態の特徴	手法の特徴	備考
第13図 図版14 89	小形壺形土器	C－7区	口径(4.9)	胎土：細砂多し 焼成：良 色調：淡褐色	指ナデ	
第13図 図版14 90	宛形土器 (片口埦？)	C－7区	口径 12.8 器高 7.2 ～8.0	胎土：粗砂、細砂を多く含む 焼成：良 色調：淡黄褐色～淡赤褐色 形がいびつで偏っており片口を思わせる。	ナデか？ 内外面共に磨滅しており調整不明瞭	口縁を若干欠く
第13図 図版14 91	広口壺	D－7区 粘土中	口径(10.7) 最大径 20.1 底径 3.0 器高 15.8	胎土：粗い砂粒を多く含む 色調：淡黄褐色 焼成：良	器面が荒れており、調整は不明瞭 外面：ナデ 内面：口縁部ナデ 上半指ナデ、下半ヘラナデ	
第13図 図版14 92	広口壺	D－7区 遺構内	口径 8.7 最大径 15.4 底径 3.9 器高 17.6	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：淡赤褐色 胴部下半に黒斑あり。	ナデか？ 器面の荒れの為、調整不明瞭	
第13図 図版14 93	大形長胴壺	D－7区	口径 9.5 最大径 27.8 器高 39.0	胎土：粗砂を多く含む 焼成：良好 色調：淡黄褐色	口縁内外指ナデ 外面：ナデ？ 内面：タテ方向巾5～10㎜ のヘラナデ	完形品
第13図 図版14 94	長頸壺	D－7区 遺構内	口径 11.0 最大径 15.3 底径 3.3 器高 29.0	胎土：細砂を含む 焼成：やや良 色調：灰褐色 底に×状の線刻文	外面：ハケ目 下半ヘラナデ 内面：口縁部ハケヨコナデ 胴上半指ナデ 下半ハケ目	口縁部を若干欠く
第13図 図版14 95	壺	D－7区	最大径 18.5 底径 5.7	胴部下半に焼成後の打ち欠きによる穿孔あり、底に黒斑	外面：巾0.5～1cmのハケナデ 内面：上半、斜向ハケ目 下半指ナデ	口縁を欠く
第13図 図版14 96	二重口縁壺	D－7区 粘土中	口径 11.0 最大径 17.1 器高 21.5	胎土：細砂を多く含む 焼成：良 色調：淡褐色	口縁外面：ナデ 内面：ナデ・粗いハケ目 胴部外面：ハケナデ 内面：上半指押さえ 下半粗いハケ目	口縁と胴部の一部を欠く
第14図 図版15 97	鉢形土器	D・E－7区	口径(18.7) 底径 6.1 器高 12.7	胎土：石英・赤褐色粒子などの細砂を含む 焼成：良 色調：赤褐色～灰褐色	外面：ナデ 内面：底に指ナデ、他はナデ	$\frac{1}{2}$欠損 復原図
第14図 図版15 98	壺	E－7区 粘土中	口径 13.0 最大径 17.6 底径 4.0 器高 17.0	胎土：石英などの細砂を含む 焼成：良 色調：淡褐色	外面：ハケ目 内面：胴上半指ナデ 下半細かいハケ目	完形品
第14図 図版15 99	甕	C－8区	口径(14.8) 底径(6.0) 器高 16.4	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：灰褐色	内外面共にナデ 口縁内外ハケ目(タタキ目？) 器面が剝落して調整不明瞭	$\frac{1}{2}$程欠損

挿図図版番号	器種	出土地点	法量 cm ( )内は推定	形態の特徴	手法の特徴	備考
第14図 図版15 100	甕	C－8区	口径 20.6 底径 5.9 器高 27.2	胎土：細砂を含む 焼成：良好 色調：灰褐色	口縁部外面タタキ目 底部：タタキ目痕あり 他はケズリ状調整後ナデ 内面：ハケ目	
第14図 図版15 101	甑形土器	C－8区	口径 15.4 孔径 2.0 ～2.2 器高 15.3 ～15.9	胎土：細砂を多く含む 焼成：良 色調：淡黄褐色 口唇部直下に2個の穿孔（焼成前）あり、底にロート状に孔が開く。	外面：ナデ 下半に黒斑 内面：ナデ 下半にハケ目	口縁が$\frac{1}{3}$ほど欠損
第14図 図版15 102	甕	C－8区	口径(20.4) 底径 5.0 器高 16.0	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：明褐色	外面：磨滅の為、調整不明瞭 指ナデ後ハケ目？ 内面：ハケ目 下部にヘラナデ	全体の$\frac{1}{3}$位残存するのみ 反転して復原
第14図 図版15 103	甕	C－8区	口径(26.6) 底径 5.2 器高 27.0	胎土：粗砂を多く含む 焼成：良 色調：淡褐色 胴部外面下半にスス付着	外面：ナデ 内面：口縁内ハケ目 他はタテ方向ナデ	
第14図 図版15 104	甕	C－8区	口径(20.0) 底径 5.0 器高 24.0	胎土：粗砂、細砂を多く含む 焼成：良 色調：赤褐色～褐色	調整は不明 胴部外面中位にスス付着 底部に指押さえ痕あり	口縁～胴部欠損
第14図 図版15 105	器台形土器	C－8区	裾部径 9.3	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：淡褐色	外面：タタキ目 上半はタタキ目のうえからヘラナデ 内面：しぼり痕 脚裾：指ナデ	上半を欠く
第14図 図版15 106	小形高坏脚部？	C－9区		胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：灰褐色 透かし状に縦長のきざみが3列つけられている。貫通していない。	ていねいなナデ	坏部を欠く
第14図 図版15 107	小形高坏脚部	C－9区	脚裾径(7.1)	胎土：粗砂を含む 焼成：良 色調：淡褐色 穿孔は6個で一個は貫通していない。	外面：指押さえ 内面：ナデ 脚内側しぼり痕あり	坏部を欠く
第15図 図版16 108	壺	D－8区	口径 13.3 最大径 17.8 器高 17.6	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：淡黄褐色	口唇部ヨコナデ 外面：細かいハケ目 下半は粗いハケ目 内面：口縁に細かいハケ目 胴上位に指ナデ	完形に接合 口縁を少し欠く
第15図 図版16 109	壺	D－8区	最大径 18.2	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：淡黄褐色	外面：細かいハケ目 内面：上半に指ナデ	口縁以外は完存
第15図 図版16 110	壺	D－8区	最大径 15.4	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：淡黄褐色 胴部下半に3本の線刻文あり。	外面：ハケ目 内面：指ナデ 頸から肩にかけてしぼり痕あり。	底部に剝落あり

挿図図版番号	器種	出土地点	法量 cm ( )内は推定	形態の特徴	手法の特徴	備考
第15図 図版16 111	短頸壺	D－8区	口径 10.3 最大径 13.3 器高 13.0	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：赤橙色～淡黄褐色	外面：粗いハケナデ 口縁内外ナデ 内面：頸部に指ナデ 以下はハケ目	口縁を少し欠く 完形品
挿図図版 第15図 図版16 112	長胴壺	D－8区	口径 12.1 最大径 17.5 底径 5.0 器高 26.1	胎土：精良　砂粒を含む 焼成：良好 色調：赤褐色（赤色顔料？） 胴部中位に円形付文２個あり	磨滅の為、不明瞭 外面：ハケ目 内面：口縁部ハケ目 頸部～肩部指ナデ以下はハケ目	
第15図 図版16 113	長胴壺	D－9区	口径 9.3 最大径 17.6 底径 4.0 器高 27.9	胎土：石英などを含む 焼成：良好 色調：淡黄褐色	内外面共にナデ 頸部～肩部の内側は指ナデ	口縁部を$\frac{1}{2}$程欠く
第15図 図版16 114	壺	C・D－9区	最大径 22.6	胎土：細砂を含む 焼成：良好 色調：淡褐色 胴部に一条の線刻文	外面：タテ、斜向ハケ目 内面：上位にしぼり痕 以下指ナデ後ヨコハケ目	脚部下位と口縁部を欠損
第15図 図版16 115	広口壺	D－9区	口径 14.0 底径 2.8 器高 19.0 ～19.4	胎土：精良　細かい石英粒を含む 焼成：良 色調：淡褐色 口縁内側に３本の線刻文 胴部外面下半に黒斑	外面：ハケ目 口縁部内面ハケ目 内面：胴部上半指ナデ 下半ナデ	口唇部は磨滅しているが、つまみ上げ、ヨコナデしていると思われる。
第15図 図版16 116	長胴壺	D－9区	口径（ 9.7） 底径（ 3.8） 器高 28.5	胎土：粗砂、細砂を多く含む 焼成：良好 色調：淡黄褐色	器面は磨滅の為、不明瞭ナデか？ 内外にはタテ方向の指ナデ	口縁部を$\frac{1}{2}$欠損
第15図 図版16 117	長胴壺	D－9区	口径(13.5) 最大径 15.6 底径 5.4 器高 35.1	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：淡褐色 頸部にヨコ10本の線刻文	調整不明瞭 外面：上半タテ方向ヘラミガキ 下半ヨコ方向ヘラミガキ 内面：ナデ 口唇部はヨコナデ	口縁を若干欠く
第15図 図版16 118	小形壺形土器	D－9区	口径 6.0 最大径 9.2 器高 9.9	胎土：細砂、赤褐色粒子を含む 焼成：良好 色調：淡黄褐色 底部外面に直径３cmの黒斑	内縁内外はナデ 内面：指ナデ 外面：粗いハケ後ナデ	完形
第16図 図版17 119	高坏	D－9区	脚裾径 16.4	胎土：細砂を多く含む 焼成：良好 色調：明赤褐色～黄褐色 胴部に穿孔３個あり	調整は不明瞭 外面：ミガキ 内面：ナデ？(ミガキ) 脚内面　ナデ→ヨコナデ	坏部と脚部を$\frac{1}{2}$強欠く
第16図 図版17 120	二重口縁壺	D－10区	口径 19.0	胎土：赤褐色粒子を多く含む 焼成：良好 色調：淡黄褐色 口縁部全体に櫛描波状文	外面：細かいハケ目 胴部上位ヘラナデ 内面：口縁内側指ナデ 頸部ハケ目 胴部ハケ目	胴部を欠く
第16図 図版17 121	二重口縁壺	D－10区 粘土中	口径(20.0)	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：淡褐色 口縁部に櫛描波状文	口縁部内外はヨコナデ 外面：粗いタテハケ目 内面：ミガキ(ヨコナデ)	口縁部$\frac{1}{2}$ほどの破片 反転復原図

挿図図版番号	器種	出土地点	法量 cm ( )内は推定	形態の特徴	手法の特徴	備考
第16図 図版17 122	壺	D－10区		胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：明橙褐色 胴上位に沈線と連弧文が交互に施されている	外面：ナデ 内面：ナデ	破片 反転復原図
第16図 図版17 123	壺	D－10区	最大径17.25 底径 2.7	胎土：細砂を多く含む 焼成：良好 色調：淡褐色 胴部に∧状の線刻文あり	外面：上位タテ方向ハケ目 下半粗いケズリ様ハケ目 内面：口縁部タテ斜向のハケ目以下斜向ハケ目	口縁を欠く 胴部は完存
第16図 図版17 124	壺	D－10区	最大径 16.0	胎土：細砂を多く含む 焼成：良 色調：淡褐色 底部は灰褐色	外面：磨滅の為不明，ナデか？ 下半はヘラケズリ様の調整 内面：上位：指ナデ 下位：ハケ目	口縁部欠損
第16図 図版17 125	壺	D－10区	最大径 15.7 底径径 4.9	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：淡黄褐色 口縁部が非常に小さい	外面：上半ナデ，下位ケズリ 口縁と肩部にかけてしぼり痕が内外面共にみられる 内面：ハケ目	口縁部のみ欠損
第16図 図版17 126	広口壺 (鉢形土器)	D－10区	口径(14.6) 底径 2.1 器高 11.7	胎土：角閃石、赤褐色粒子を多く含む 焼成：良好 色調：明褐色	磨滅の為不明瞭，ミガキか？ 胴部内面はナデか？	$\frac{1}{2}$弱欠損 反転実測図
第16図 図版17 127	二重口縁壺	D－11区	口径 9.6 最大径 18.2 器高 22.3	胎土：細かい石英粒、角閃石を多く含む 焼成：良 色調：明赤褐色	器面の磨滅が著しく不明瞭 内面：口縁内に指頭痕 屈折部にヨコナデ 頸部にタテ指ナデ痕	
第16図 図版17 128	高坏	C－12区	脚裾径 13.4	胎土：細砂を含む 焼成：良好 色調：淡褐色	外面：ヘラナデ 内面：ナデ 脚内面にしぼり痕 外面：ヘラナデ	坏上部を欠く
第17図 図版18 129	壺	C－11区 傾斜面	口径 10.8 最大径 15.5 器高 21.6	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：淡黄褐色～灰褐色 胴部中位に連弧状に線刻文(4本)	外面：ヘラナデ 内面：ナデ 口唇部はヨコナデ	口縁部をわずかに欠く 完形品
第17図 図版18 130	甕	C－11区	口径 15.7 底径 6.5 器高 18.6	胎土：細砂多し 焼成：良 色調：褐色～明褐色	口縁内外はヨコナデ 胴部外面ナデ、下半～底部はヘラナデ(板の小口痕がつく)	完形品
第17図 図版18 131	高坏	C・D－12・13区	裾径 (9.8)	胎土：細砂多し 焼成：良好 色調：赤褐色	内外面共にていねいなナデ 内面にしぼり痕あり	矢羽根透かしの脚 坏部を欠損
第17図 図版18 132	壺	D－12区	口径 7.0 最大径 18.0 底径 5.0 器高 18.2～17.5	胎土：細砂を多く含む 焼成：良 色調：淡黄褐色	外面：ヘラ状工具によるナデ 内面：指ナデ	完形品

挿図図版番号	器種	出土地点	法量 cm ( )内は推定	形態の特徴	手法の特徴	備考
第17図 図版18 133	壺	C—12区 D—12区	口径 9.4 最大径 13.4 器高 18.8	胎土：砂粒を含む 焼成：良 色調：黄褐色、内面，灰色 底部に黒斑(巾約6.0cm)	外面：口縁ヨコハケナデ 下位タテ方向ヘラナデ (ハケ目) 内面：指ナデ 口縁内外はヨコナデ	ほぼ完形
第17図 図版18 134	壺	D—12区	口径(9.4) 最大径 16.3 底径 3.7 器高 19.0	胎土：細砂（赤褐色粒子、角閃石など）を含む 焼成：良　色調：明赤褐色 外面の対称位置に波状のヘラ描文を施す。	粗いハケ目 内面は指ナデ 磨滅の為、不明瞭	口縁部を若干欠く
第17図 図版18 135	壺	D—13区	最大径 19.2 底径 4.4	胎土：細砂を多く含む 焼成：良好 色調：橙褐色～淡黄褐色 胴上位にヨコナデして段状をなす。 屈曲部に沈線を施し上向きの重弧文をめぐらす	内外面共にナデ	免田系土器 口縁を欠く
第17図 図版18 136	壺	D—13区	最大径 20.8 底径 3.7	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：外面、黄褐色～赤褐色 内面、灰色 頸部直下に下向きの重弧文	内外面共にナデ 外面はミガキに近いナデ	免田系土器 口縁を欠く
第17図 図版18 137	壺	D—13区	最大径 21.2 底径 5.5	胎土：やや粗い砂粒を多く含む 焼成：良 色調：外面、淡黄褐色　内面、黒色 頸部直下に10本の平行沈線文がめぐり、その下に下向きの重弧文を施す	外面：ていねいなナデ 下位にハケ目 内面：指ナデ	免田系土器 口縁を欠く
第17図 図版18 138	高坏	D—13区	口径 28.7	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：赤褐色	内外面共にミガキ	
第17図 図版18 139	器台	D—13区	口径 19.0	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：黄褐色	外面：ハケ目 内面：ナデ	
第18図 図版19 140	壺	E—11区 粘土中	最大径 15.5 底径 3.8	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：灰黄色 胴部中位に直径５～６cmの黒斑	外面：上半ハケ目後タテミガキ 下半ミガキ 内面：上半指ナデ 下半ヘラナデ	長頸壺と思われる
第18図 図版19 141	甕形土器	E—12区	口径 29.8	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：淡褐色～淡黄褐色	内外面共に粗いハケ目	破片
第18図 図版19 142	高坏	E—11区	口径(18.2) 脚裾径 12.7 器高 18.9	胎土：細砂を含む　焼成：良 色調：黄褐色～赤褐色 脚部に透かし孔５個めぐる。 坏と脚は続けて作り、後で間をふさでいる。	磨滅の為、不明瞭ナデか？ 脚部内面　しぼり痕あり	坏部が非常にいびつで波うっている
第18図 図版19 143	壺	E—13区 下層	底径 5.4	胎土：細砂を含む 焼成：良好 色調：淡褐色 底に直径１cmのまるい凹みが押されている。	口頸部　ハケ目 体部上位ていねいなナデ 下位粗いハケ状調整痕	

挿図図版番号	器種	出土地点	法量 cm ( )内は推定	形態の特徴	手法の特徴	備考
第18図 図版19 144	壺	E－13区	底径 4.6	胎土：粗砂を多く含む 焼成：良 色調：明赤褐色	外面：ハケ目 内面：指ナデ	
第18図 図版19 145	高坏	E－13区	口径(22.0)	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：淡褐色	内外面共にミガキ	破片 反転図
第18図 図版19 146	甕形土器	E－13区	口径(24.6)	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：淡褐色	内外面共にナデ 刻目凸帯の上下はヨコナデ	破片
第18図 図版19 147	壺	F－11区	最大径 19.2 底径 7.1	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：淡黄褐色	外面：ミガキ様のヨコ方向のナデ 頸部ミガキ 内面：ナデ、ヘラナデ 頸部指ナデ	免田系土器

3. 絵画文・線刻文のある土器について

中岡遺跡出土の土器類の内，特に絵画文・線刻文のある土器が多く見られた。まだ総ての資料について検証するまでには至っていないが，200余点中42点の壷に線刻文が施されていた。

宮崎県内の絵画文のある土器としては，佐土原町下那珂遺跡，宮崎学園都14号地，清武町福屋敷出土のもの等が知られている。中岡遺跡D－8区出土の壷の胴部に描かれた絵画文の意匠は不明だが，県内の他遺跡の資料同様，鳥あるいは動物を表現していると思われる。

線刻文については，中岡遺跡の性格上（土器焼成遺構としての），土器製作工程において何らかの意味をもつ記号としてつけられた可能性があると思われる。

A類　D－8区出土の絵画文の他に，胴部に円を描くもの，免田系土器の文様の退化形態と考えられるもの，櫛描波状文の退化形態と考えられるもの等。

B類　連弧文（b），弧文（c），それに近い意匠のもの（a）。

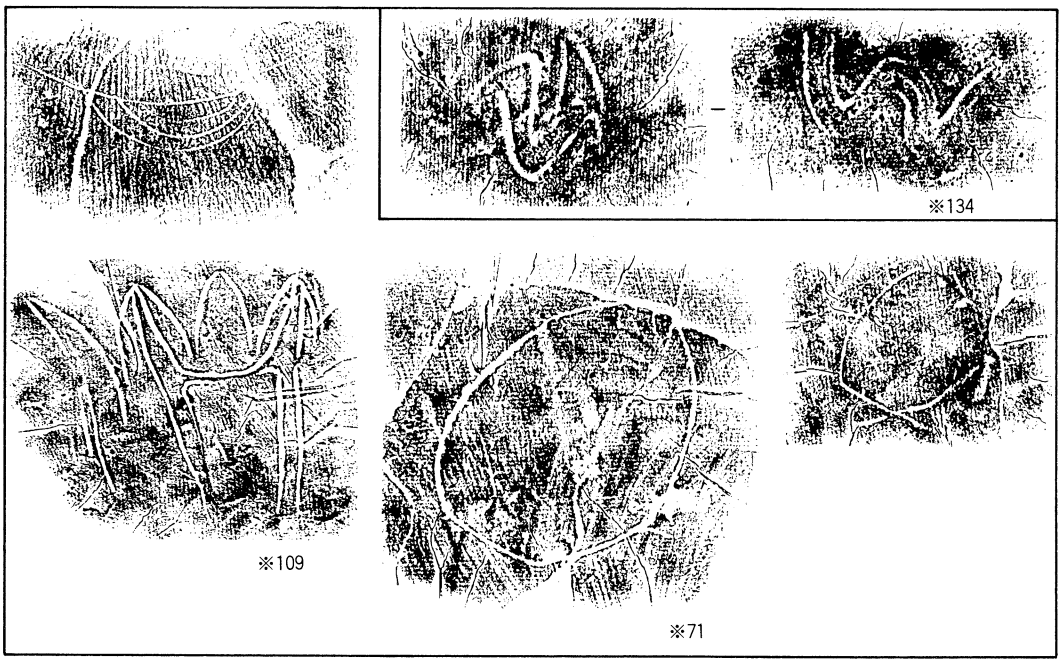
C類　胴上部ないし頸部にヨコ方向にヘラで複数の線をひくもの。

D類　タテ方向にヘラで一本（a）ないし数本（b）の線を胴部にひくもの。口縁内側に数本ひくもの（c）。

E類　入状に胴部にヘラ描きするもの。

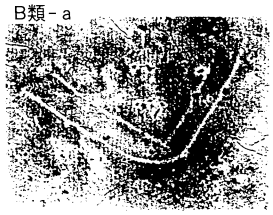
F類　意匠としてはD類に似ているが，全部底部から胴部中位に向けて二本ないし数本ひくもので，中には調整時の条痕か？と思われるものも含まれている。

G類　壷の底に×状にヘラ描きされるもの。



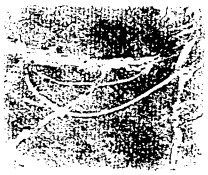
A類

B類－a

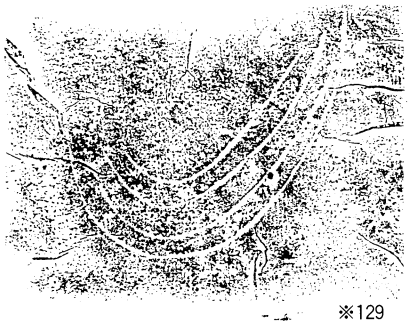


※26

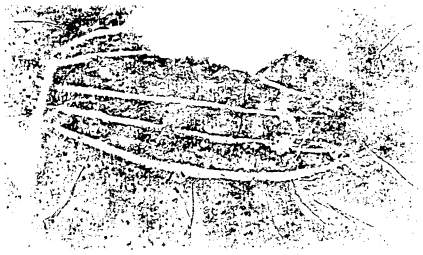
B類－b



※43

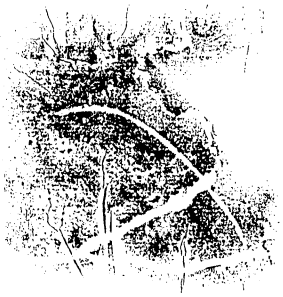


※129



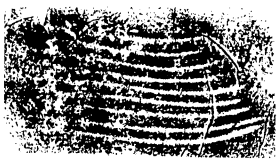
※47

B類－c



※23

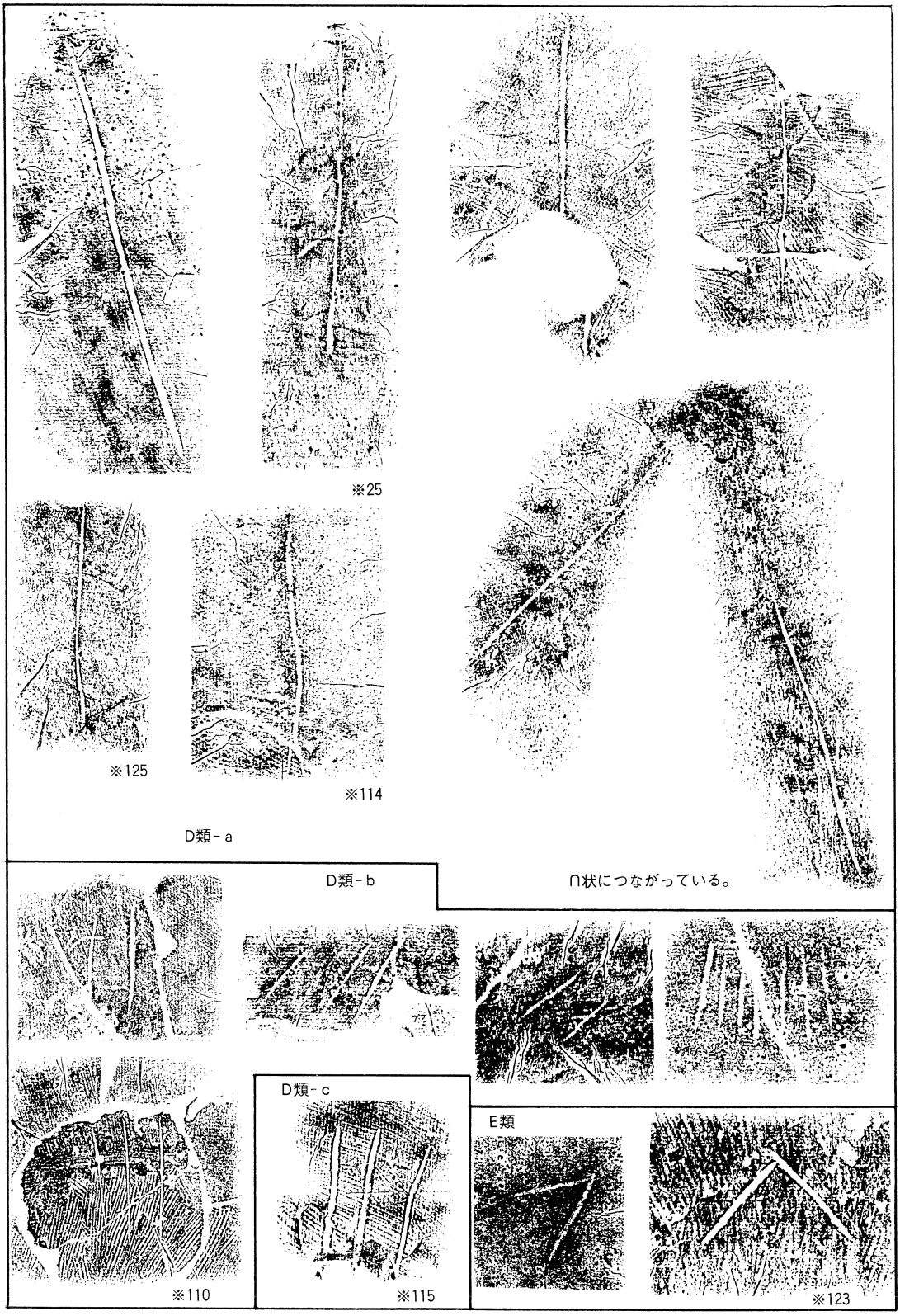
C類



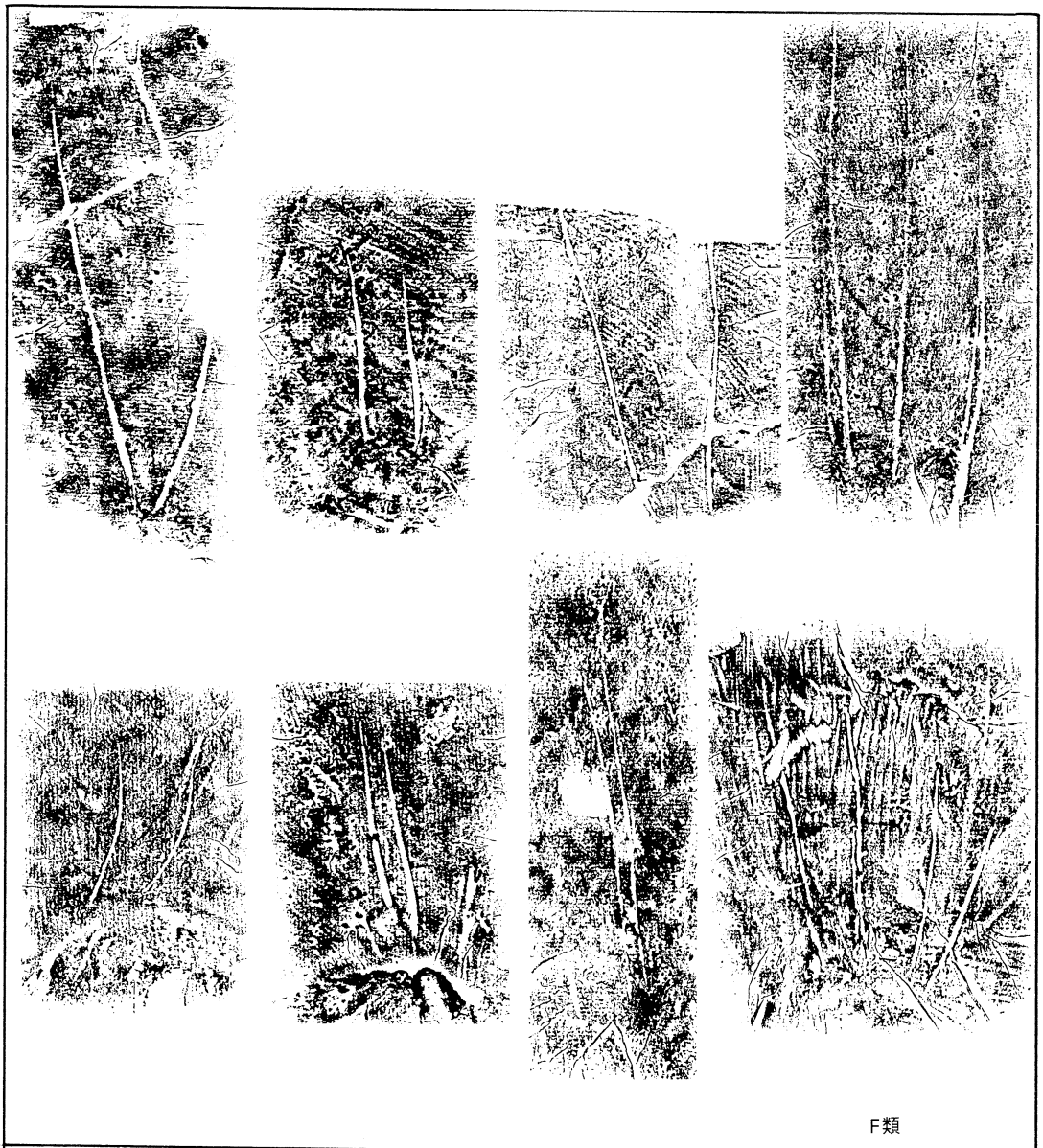
※117

※11

B類（a・b・c）・C類



D類（a・b・c）・E類

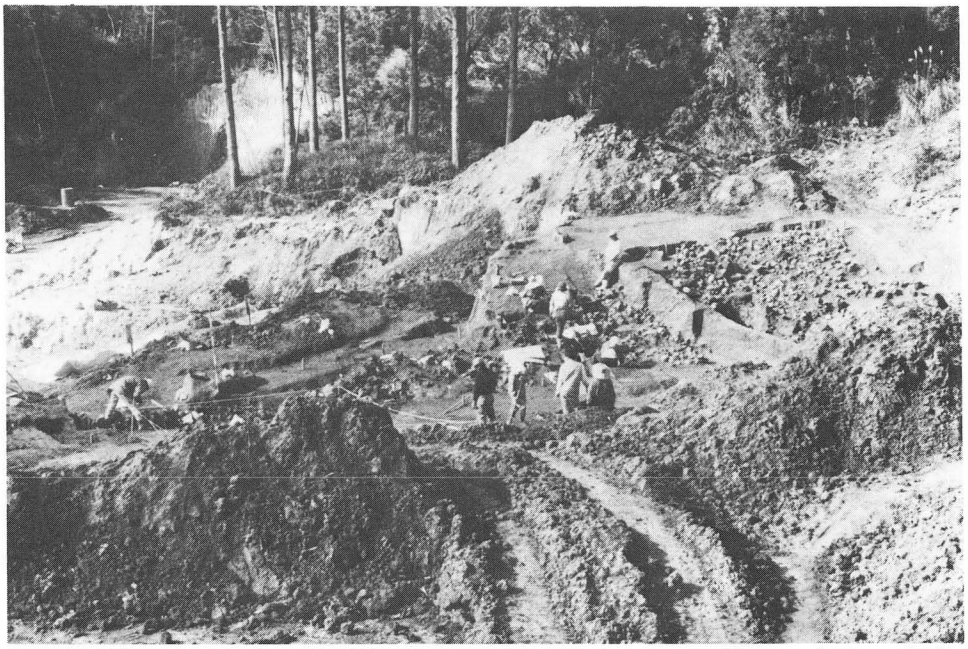


F類

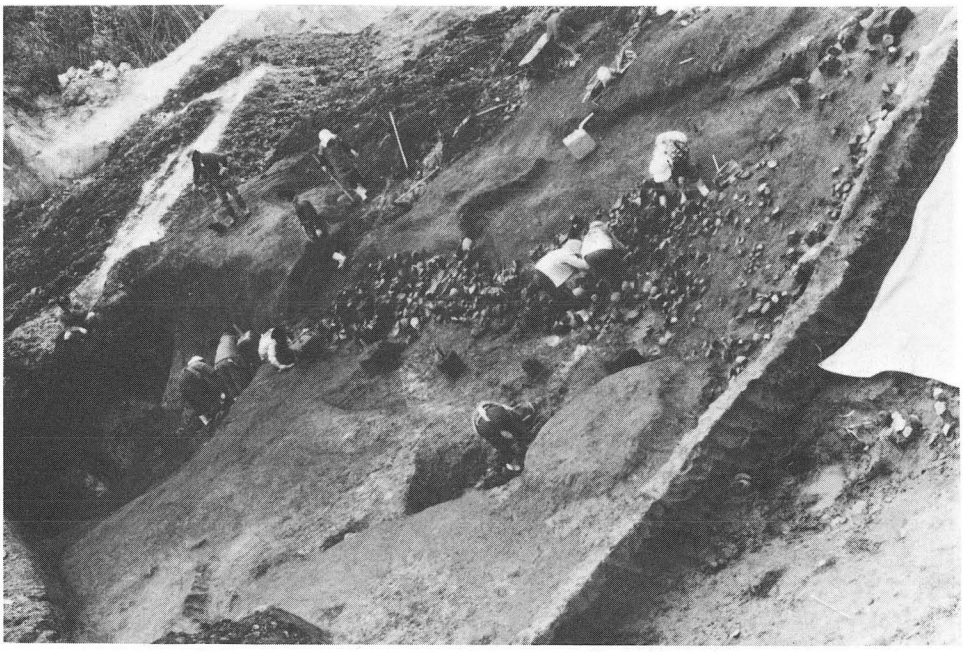
※1　※94　G類

F類・G類

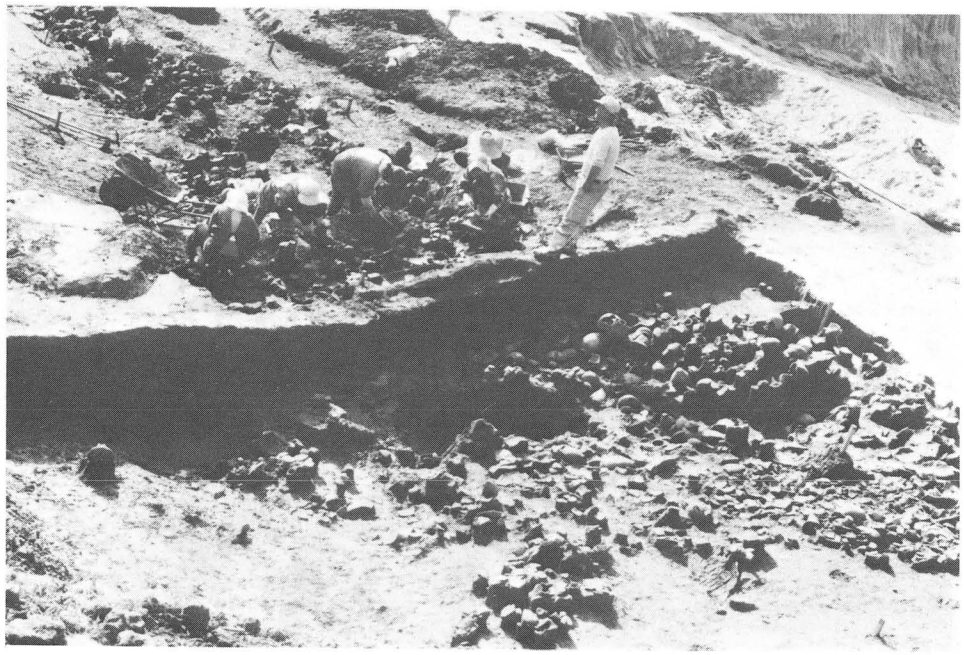
図　　版



① 遺跡の全景

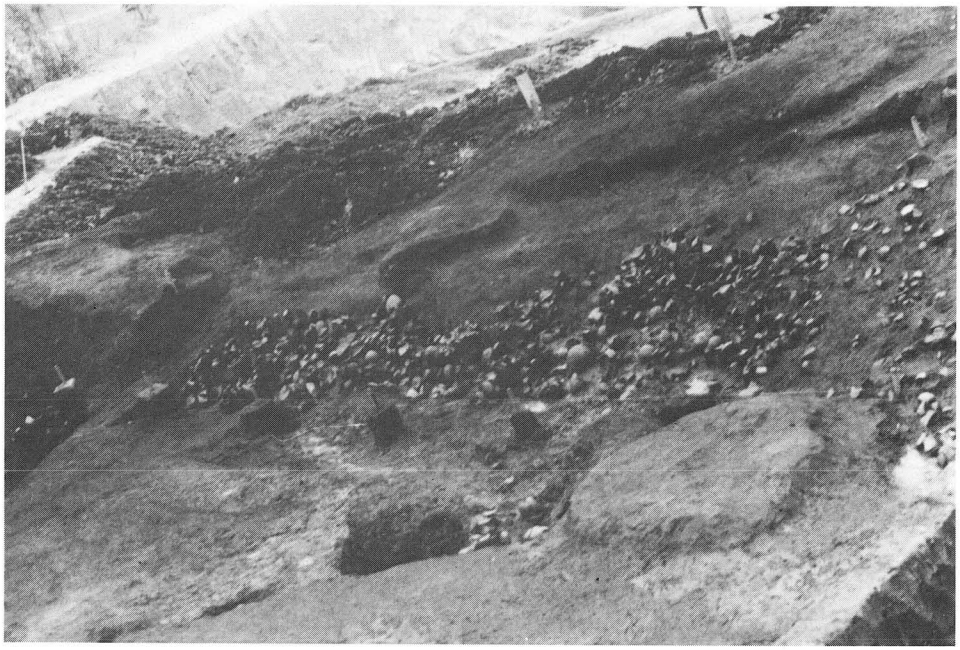


② 発掘調査作業風景



③　発掘調査作業風景

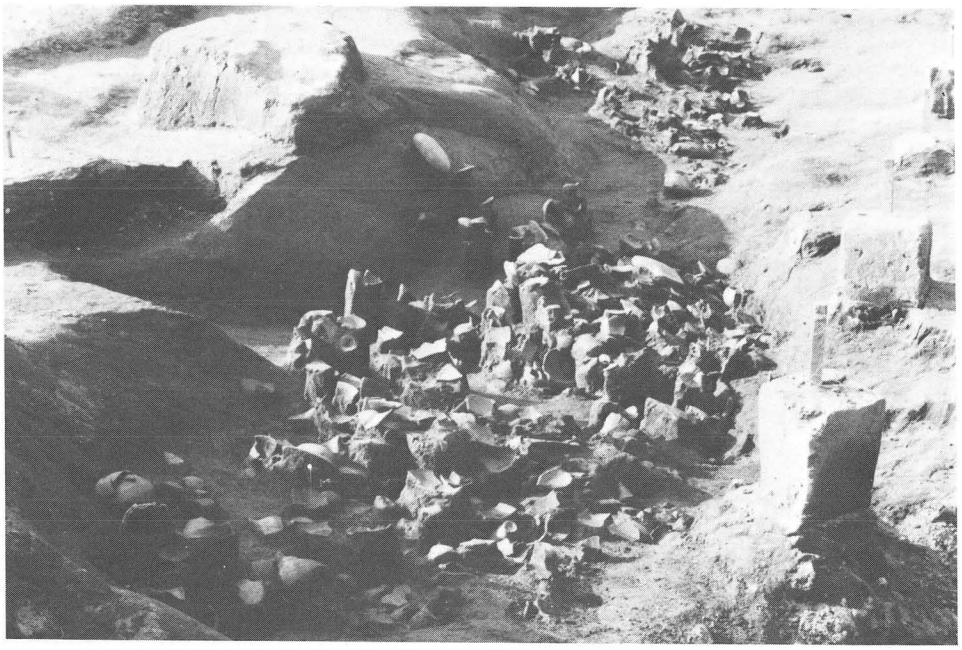
④　焼成土坑上面土器出土状態



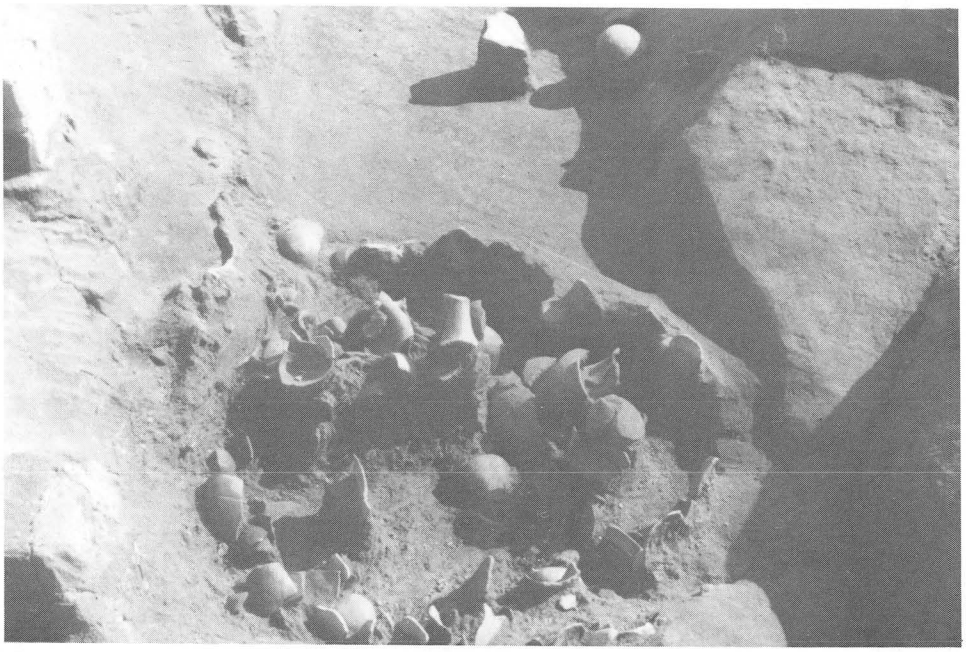
⑤　焼成土坑上面土器出土状態（北から）

⑥　焼成土坑上面土器出土状態（東から）

⑦　焼成土坑上面土器出土状態

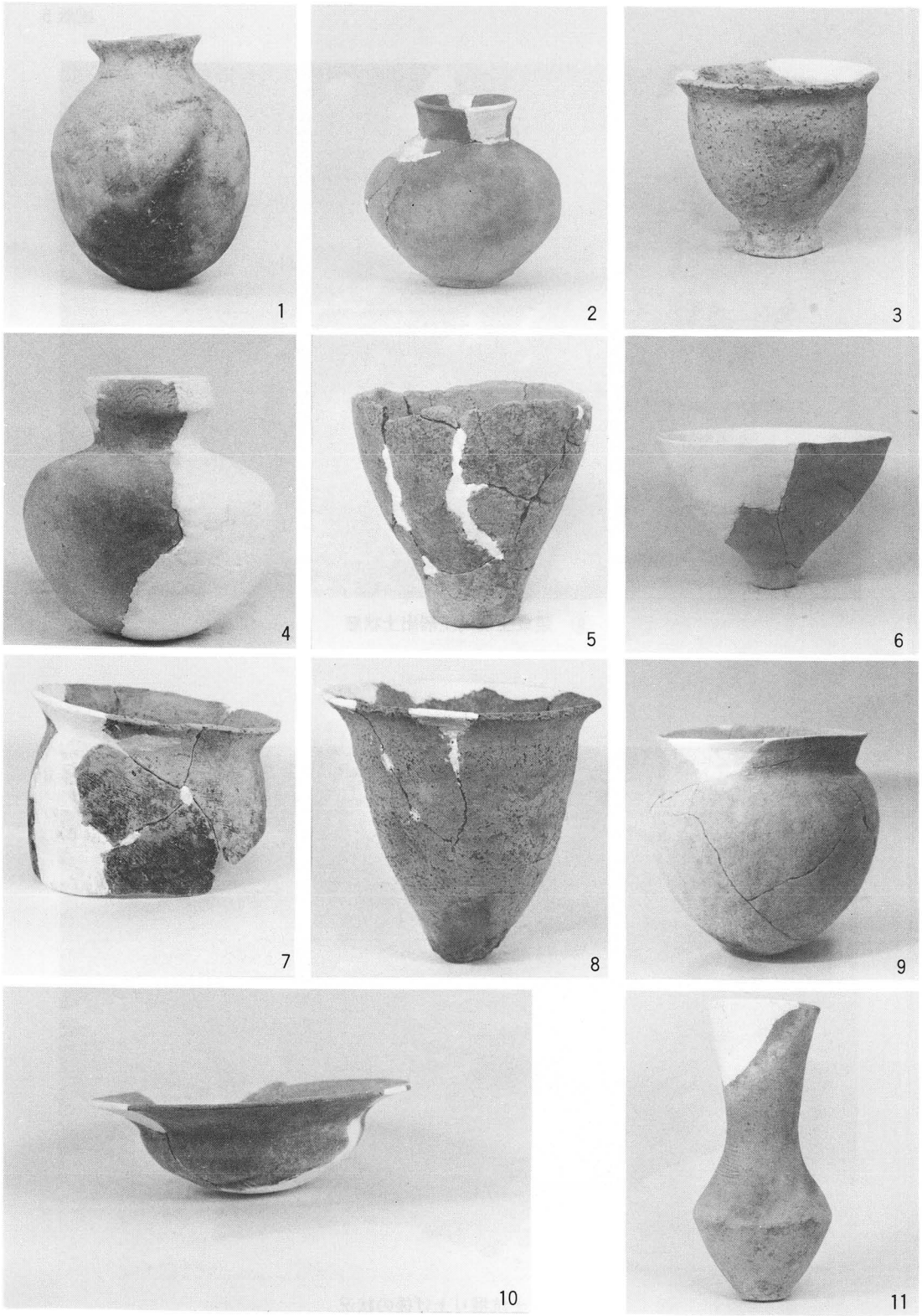


⑧　焼成土坑上面土器出土状態



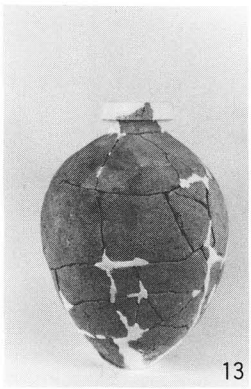
⑨　焼成土坑内土器出土状態

⑩　焼成土坑掘り上げ後の状況

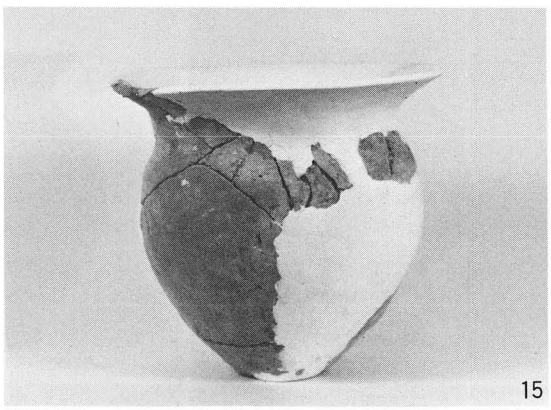


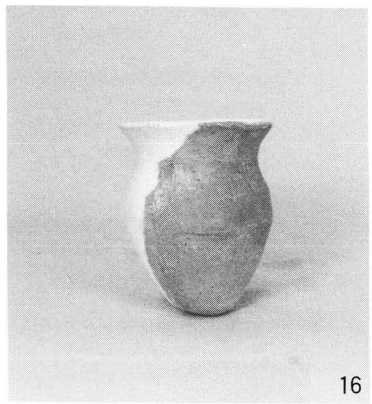
図版 6　　焼成土坑内出土土器 1 ～11

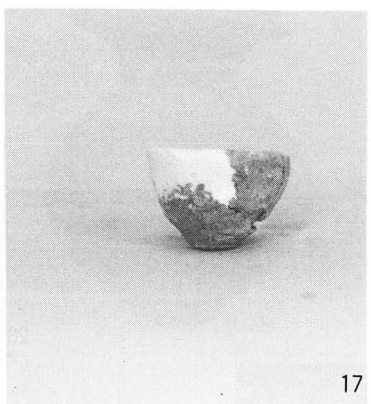
12

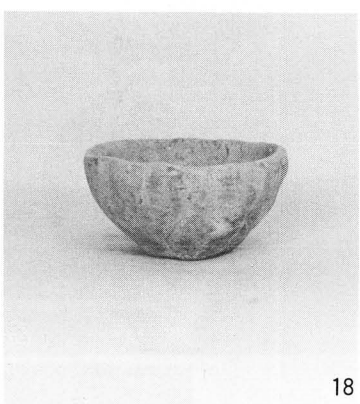

13

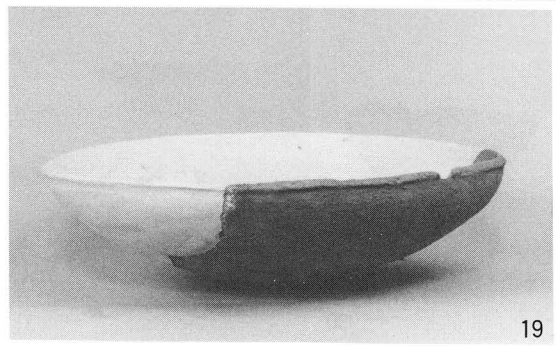
14

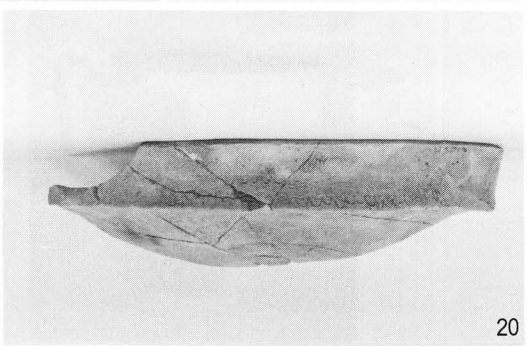

15


16

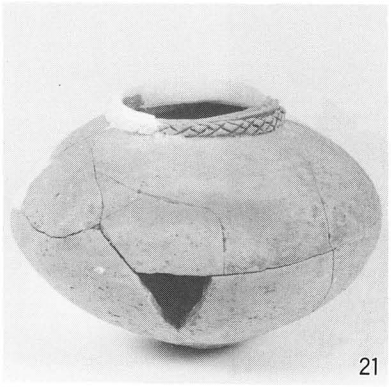

17


18

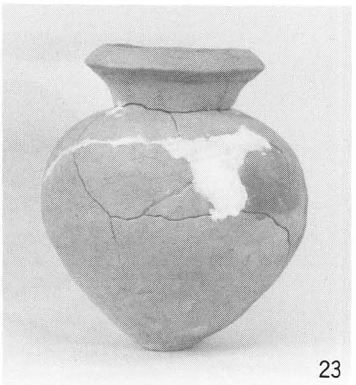

19

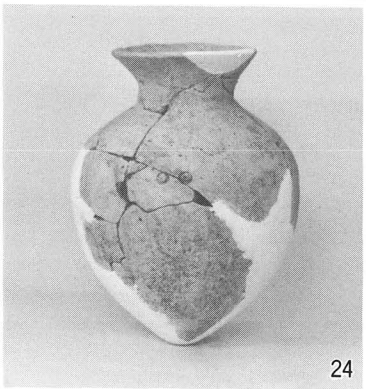

20

図版７　　Ｄ－４・Ｄ－５・Ｃ－５出土土器12～20


21

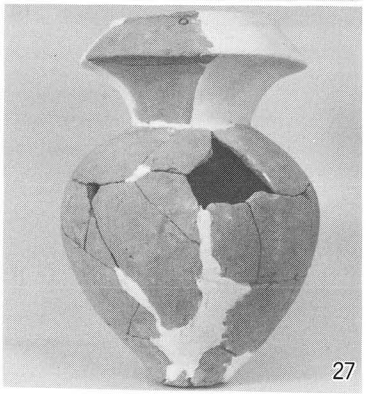
22


23

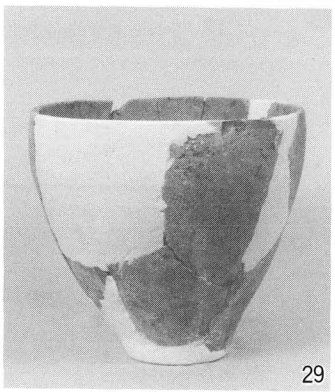

24

25

26


27

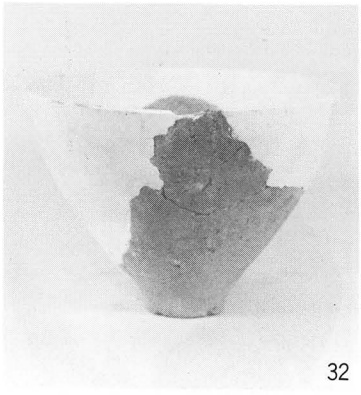
28


29

30

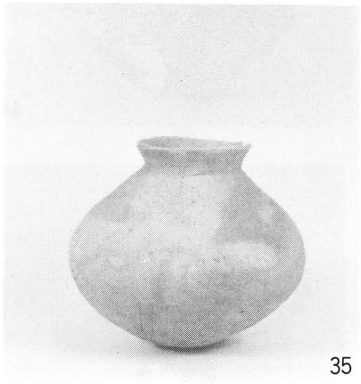
31

図版 8　　C－4・D－5 区出土土器21～31

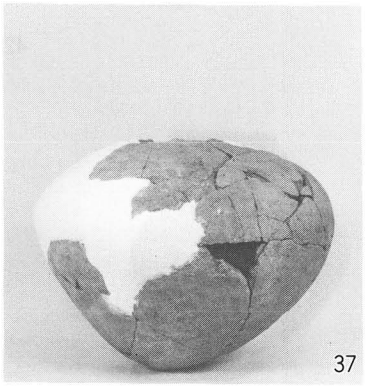

32

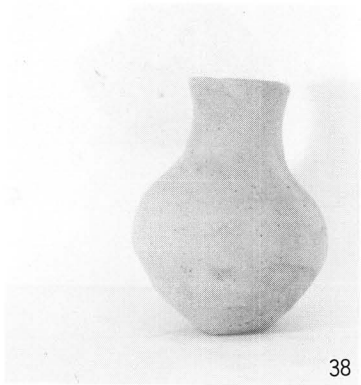
33

34


35

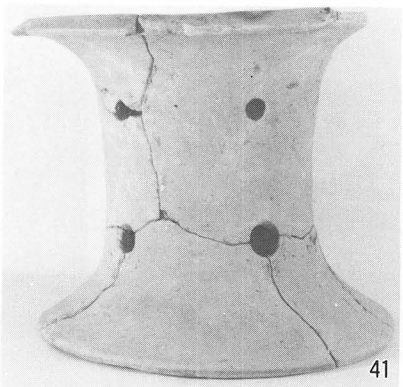
36


37


38

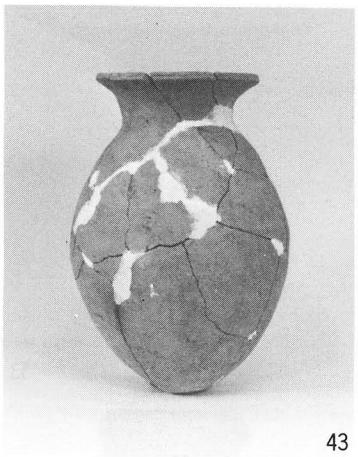
39

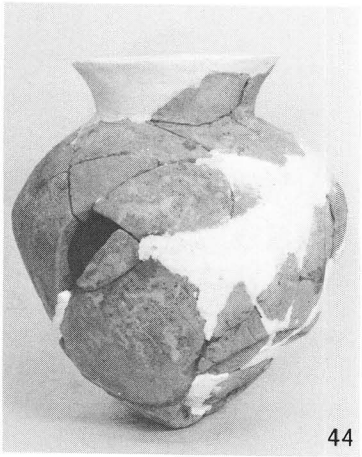
40


41

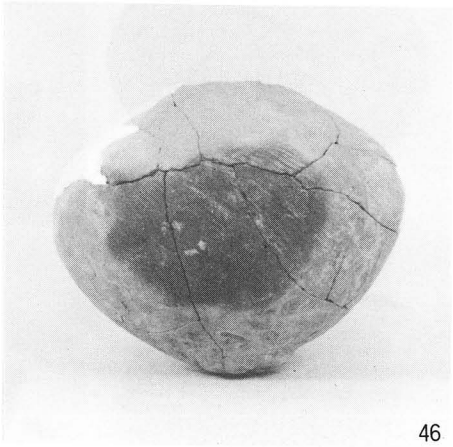
図版 9　　C－4・D－5・D－6 出土土器32～41

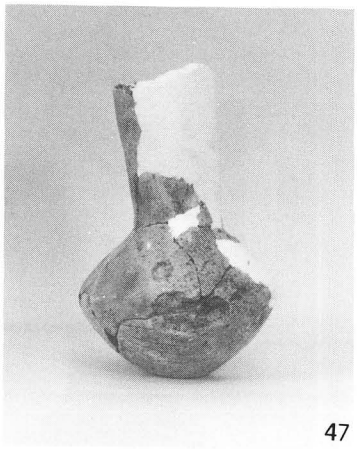
42

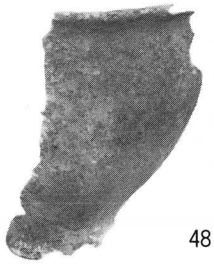

43


44

45


46

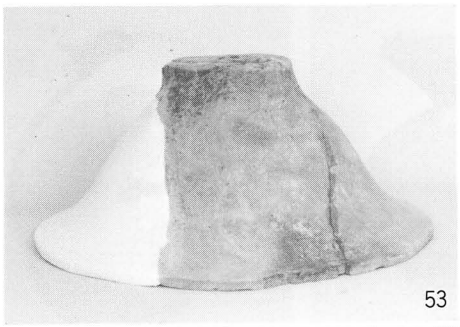

47

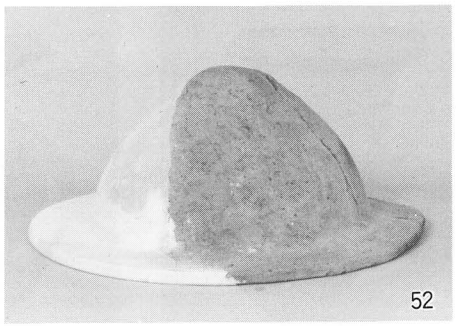

48

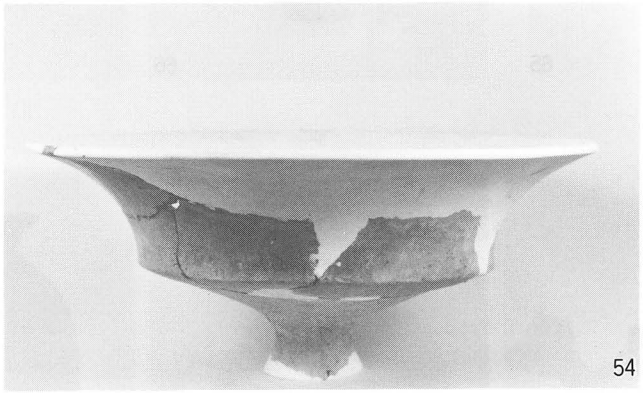
49

50

図版10　C－6区出土土器（42～50）

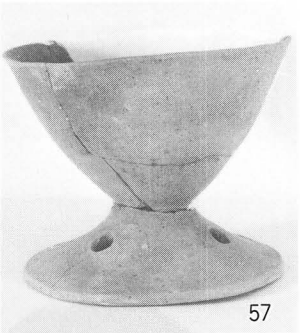

53

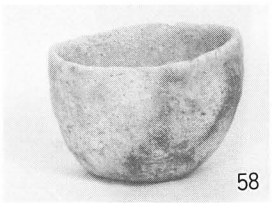

52

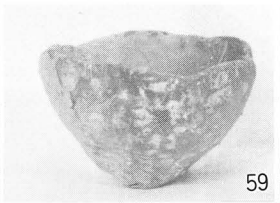

54

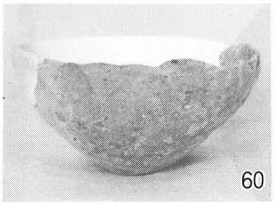
55

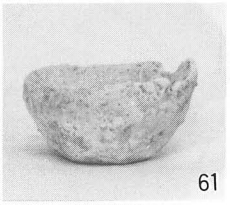
56

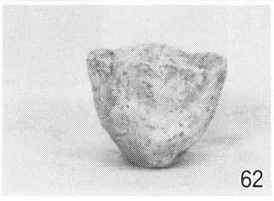

57

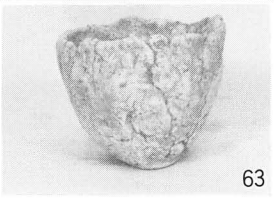

58

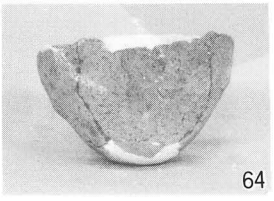

59


60


61

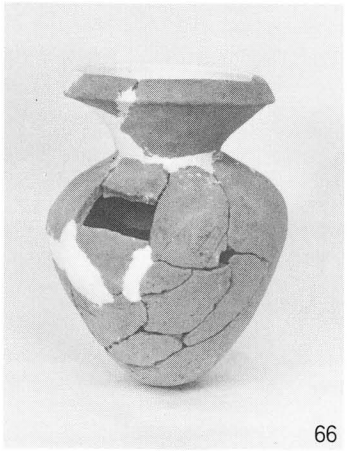

62

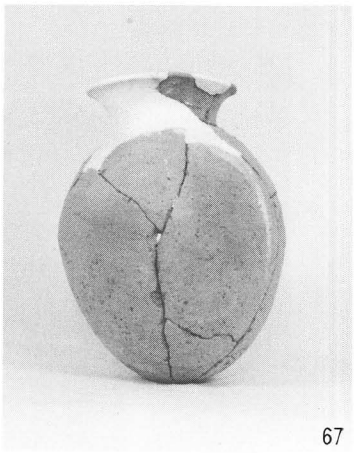

63

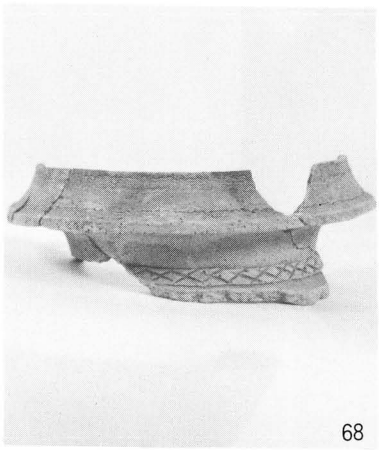

64

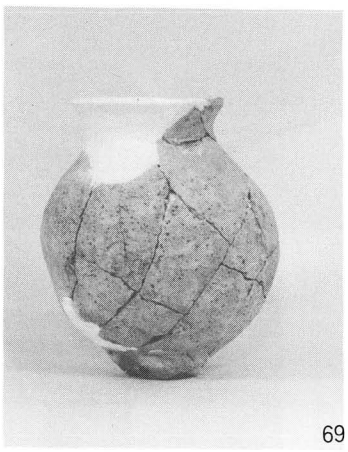
図版11　　C－6区出土土器（52～64）

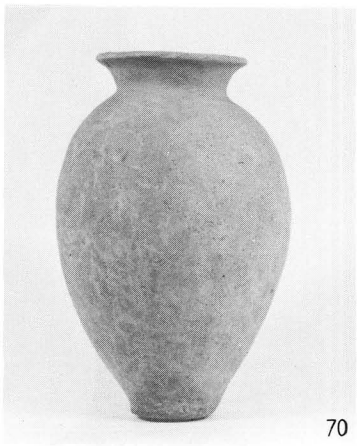
65


66


67


68


69


70

71

72

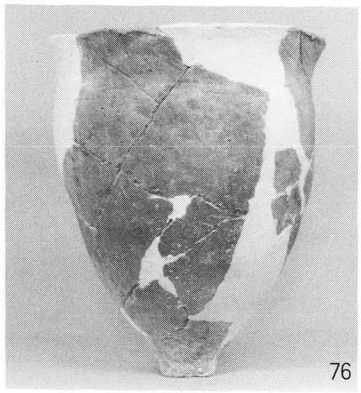
73

図版12　　C－7区出土土器（65～73）

74

75

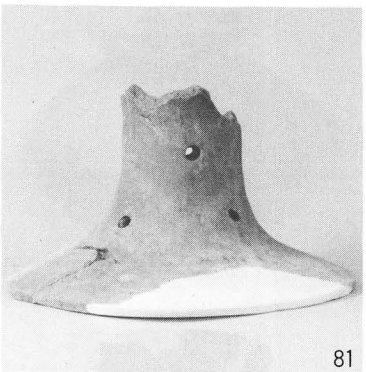
79


76

77

78

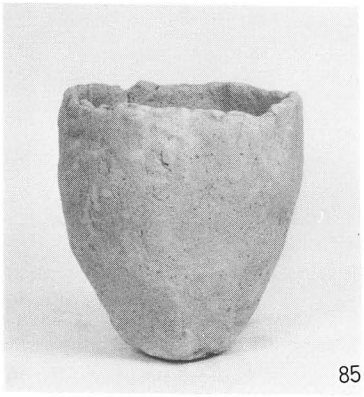
80


81

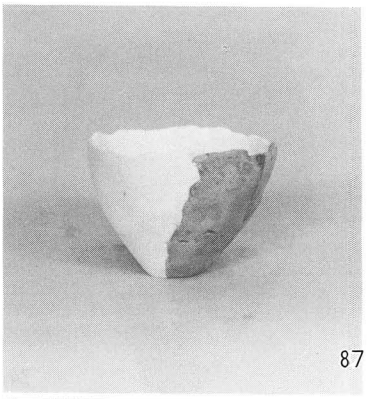
82

83

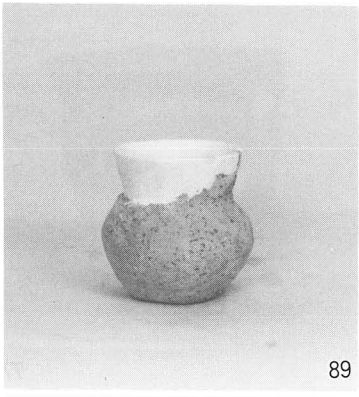
図版13　　C－7区出土土器（74～83）

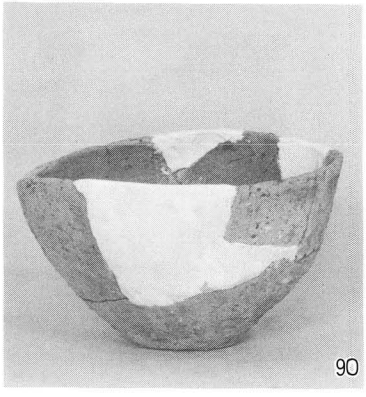

85

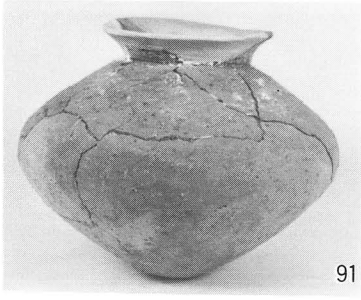
86


87

88


89

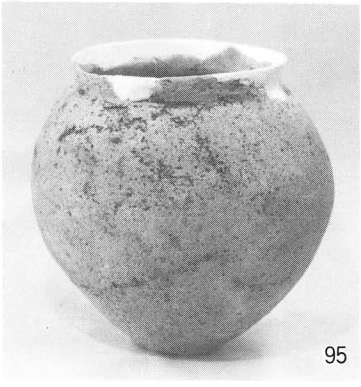

90

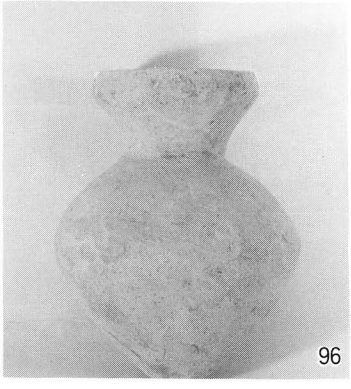

91

92

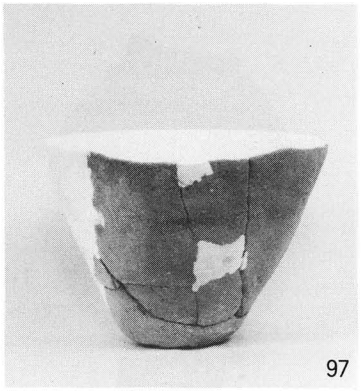
93

94

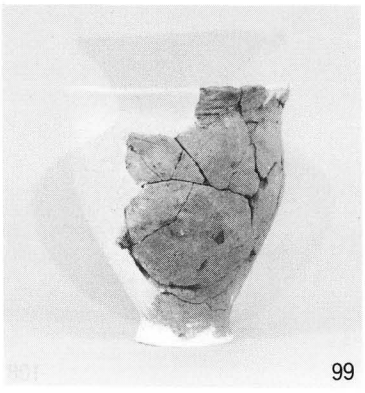

95

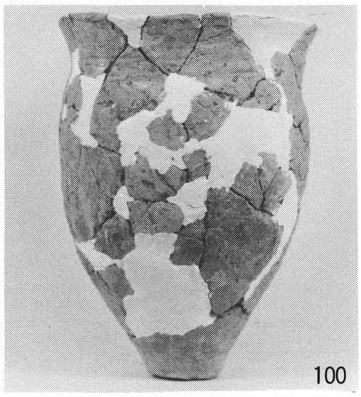

96

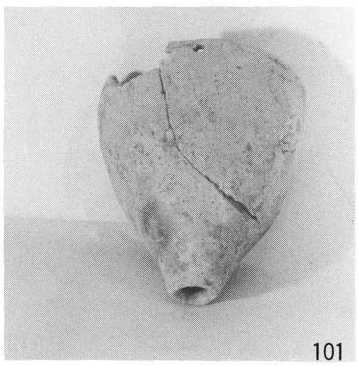
図版14　C－7・D－7区出土土器 (84～96)

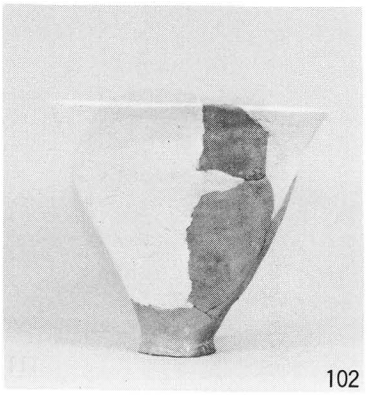

97

98

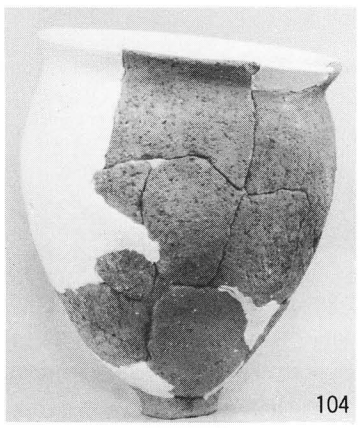

99


100

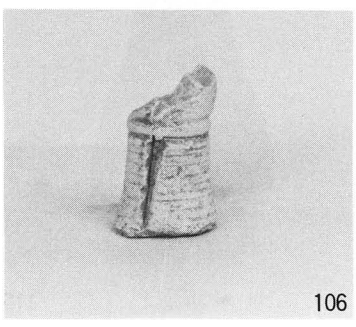

101

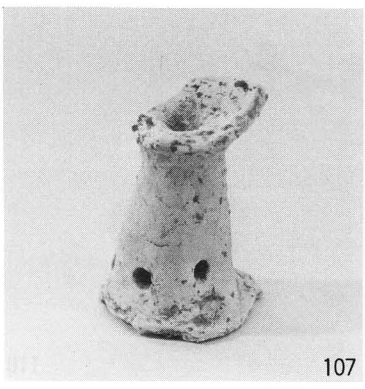

102

103


104

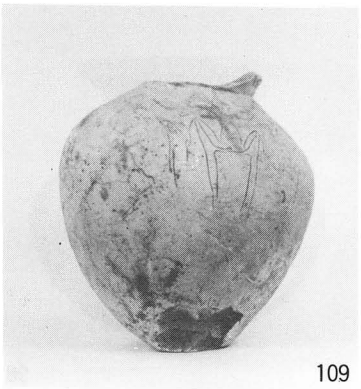
105

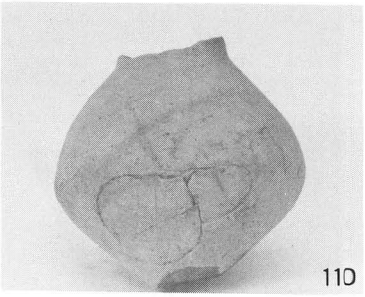

106


107

図版15　　D－7・E－7・C－8・C－9区出土土器（97～107）

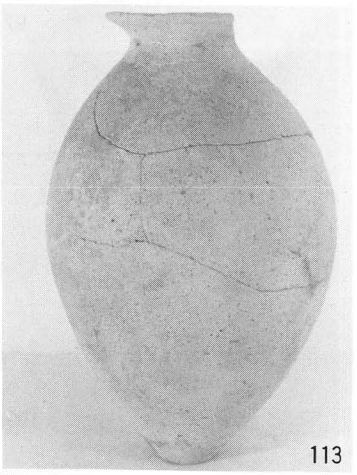
108

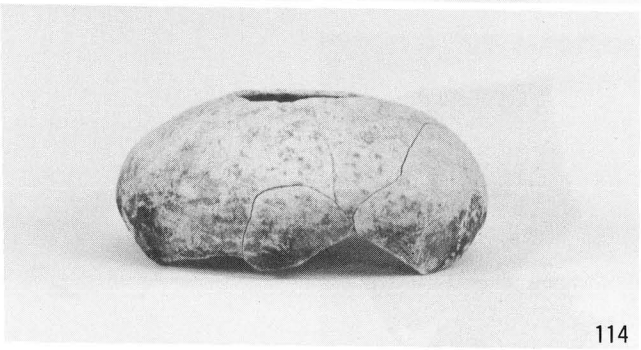

109


110

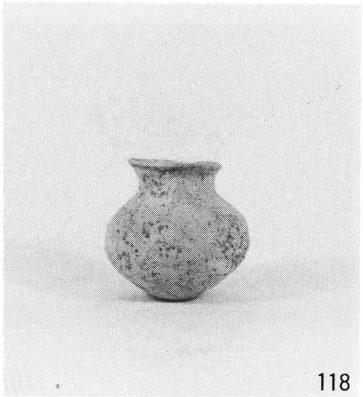
111

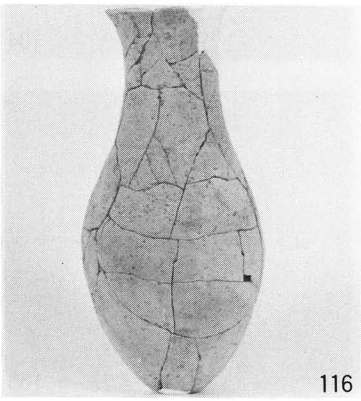
112

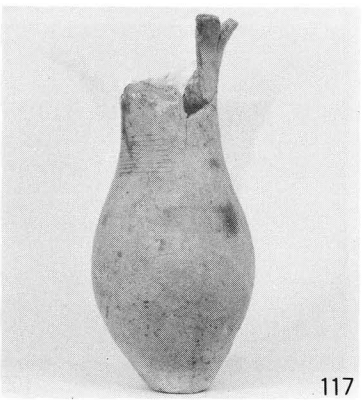

113


114

115


118

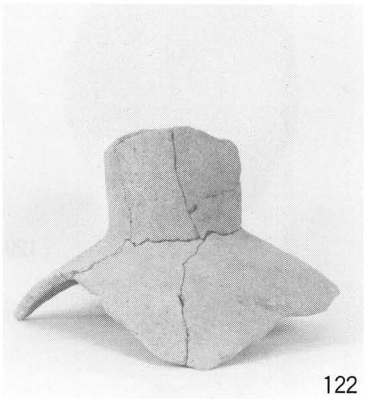

116

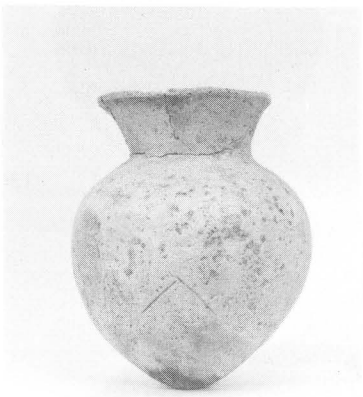

117

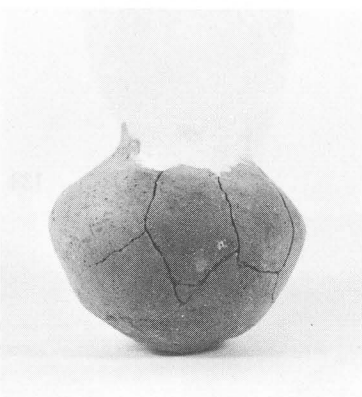
図版16　　D－8・D－9区出土土器（108～118）

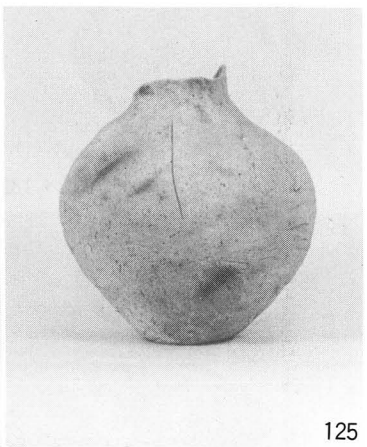
119

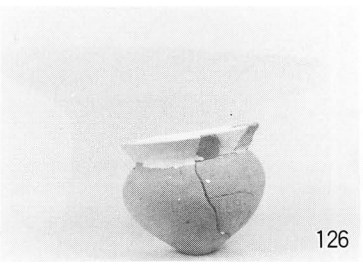
120


122


123


124

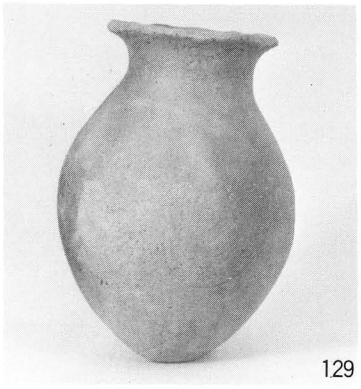

125


126

127

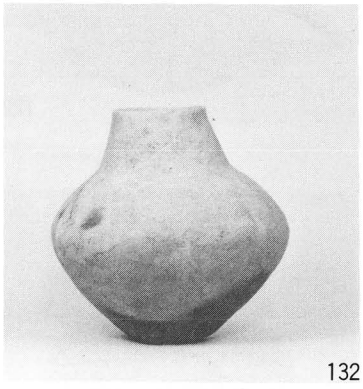
128

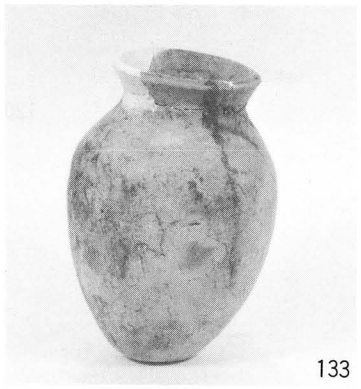
図版17　D－9・D－10・D－11・C－12区出土土器（119～128）

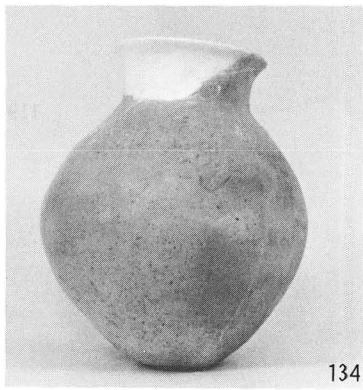

129

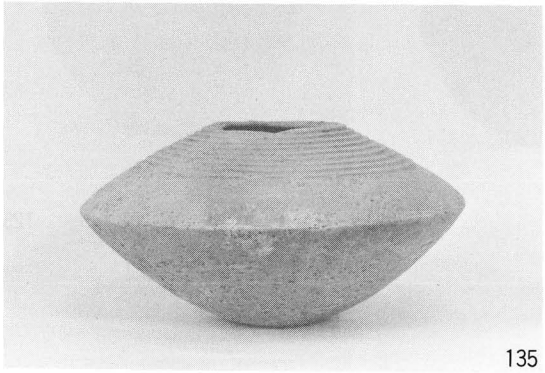
130

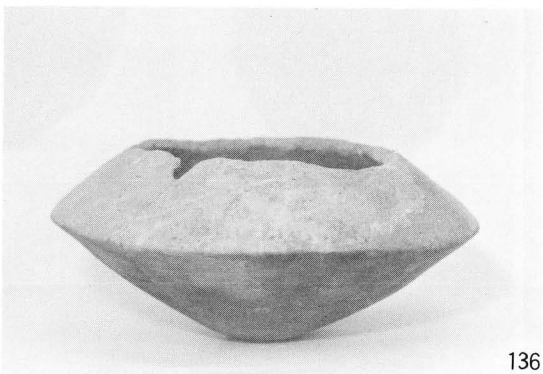
131

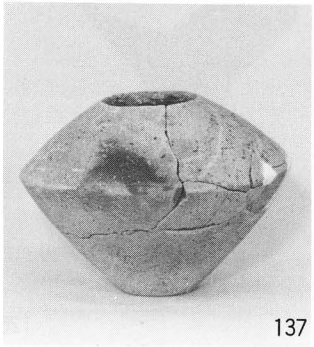

132


133


134


135

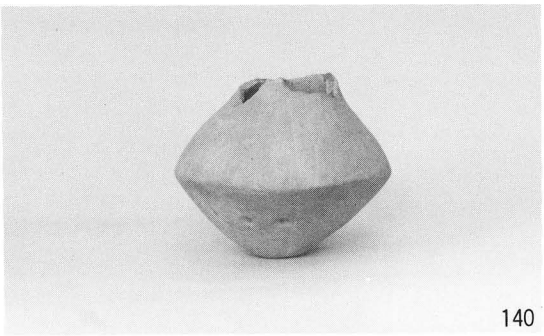

136

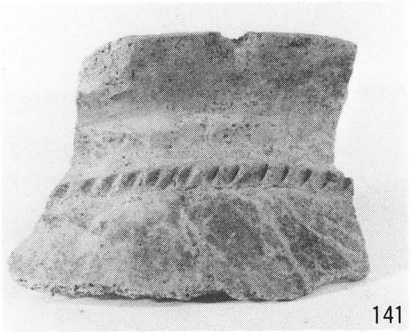

137

138

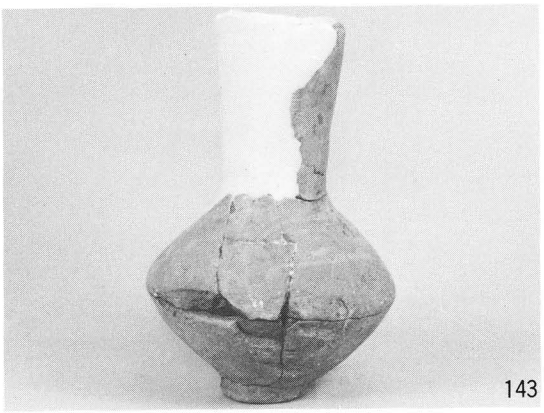
139

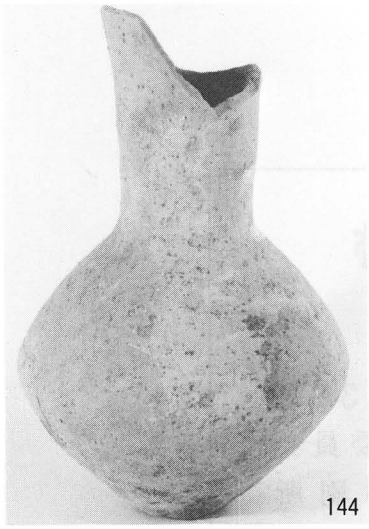
図版18　C－11・D－12・D－13出土土器（129～139）


140

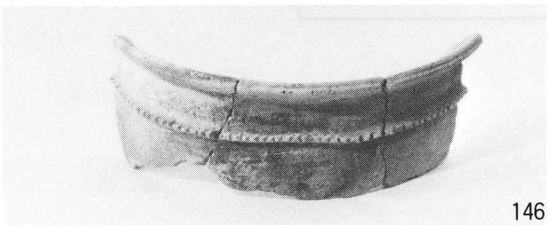

141

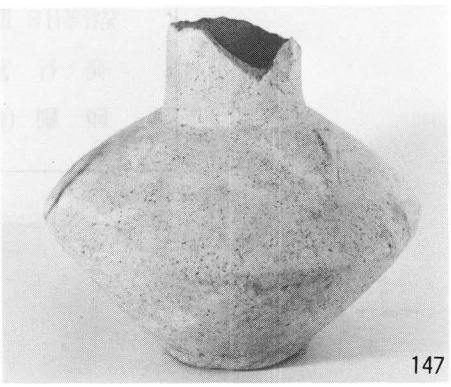
142


143


144

145


146


147

図版19　E－11・E－12・E－13・F－11区出土土器（140～147）

中岡遺跡

発行年月日 昭和６２年３月３１日
発　行 宮崎市教育委員会
印　刷 ㈾愛文社印刷所